

年 報 8

平成 3 年度

1992.3

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 8

平成 3 年度

1 9 9 2 . 3

山梨県埋蔵文化財センター

序 文

当埋蔵文化財センターが1982年4月に設立されてから、今年度で満10年を経過いたしました。

この間、当センターが発掘調査を行ってきました遺跡は、1982年度10遺跡、83年度7遺跡、84年度8遺跡、85年度9遺跡、86年度8遺跡、87年度16遺跡、88年度13遺跡、89年度11遺跡、90年度13遺跡、91年度14遺跡にのぼり、発掘調査報告書も70冊以上を刊行いたしました。これらの内容は先土器時代から近世に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に役立つところ極めて大きいものがあつたと信じております。また、遺跡調査発表会の開催や収蔵資料の貸し出しなど県内外に、本県の歴史をひろく理解していただくための啓蒙普及活動も行つて参りました。

本書は、1991年度に当埋蔵文化財センターが行つた発掘調査および試掘・分布調査の概要と遺跡発表会等の事業概要を報告するものであります。今年度は14遺跡の発掘調査と9事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、縄文時代では、県内初の縄文時代早期の石組炉や、縄文後期の掘立柱建物跡と埋甕が確認されている大月市の外ガイド遺跡、弥生時代では中道町の東山北遺跡、米倉山B遺跡などがあげられ、古墳時代では、一部弥生時代終末の時期も入りますが、古墳時代前期の集落跡の増穂町平野遺跡の調査などがあります。平野遺跡から検出された住居跡のほとんどが焼き払われたような状況にあると言われ、その解明には興味深いものがあります。また奈良～平安時代では、若草町の新居道下遺跡、中・近世の遺跡では甲府城の他、須玉町前の山狼煙台の調査などが行われました。

本年も、山梨県内では100件近くの発掘調査が行われ、県内の開発事業の多さが、あらためて認識されました。3年目を迎えた甲西バイパスの発掘及び試掘調査に加えリニア新実験線建設に伴う同調査も今年度から行われるようになりました。このような、大型開発事業にかかわる発掘調査が年々増え続け、確実に消えて行く遺跡も多くなるのは誠に残念なことです。このような状況の中で、当然のことながら一度破壊されれば、二度と戻ることのない先祖の残した貴重な文化遺産を、可能な限り守って行くのが、私たちの大きな責務であると痛感いたします。当センターにおきましては、埋蔵文化財の保護保存と、本県の古代史解明とを通して、郷土山梨の文化の向上に努力して参りたいと存じますので、今後ともなお一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1992年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯 貝 正 義

目 次

I 1991年度の事業概要

1 発掘調査	1
2 整理事業	1
3 発掘調査報告書	2
4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	2
5 遺跡調査発表会	4
6 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会	5

II 各遺跡の発掘調査概要

1 古代官衙・寺院址詳細分布調査	6
2 甲ツ原遺跡	8
3 前の山狼煙台跡	10
4 宿尻遺跡	12
5 甲府城跡（県指定史跡）	14
6 西の入・篠八田遺跡	17
7 新厩道下遺跡	18
8 二本柳遺跡（甲西バイパス）	20
9 二本柳遺跡（農道）	22
10 東山北遺跡	24
11 米倉山B遺跡	26
12 長田口遺跡	28
13 平野遺跡	30
14 外ガイド遺跡	32
15 ハケ岳東南麓ほか遺跡分布調査	34
16 甲西バイパス地内試掘調査	38
17 リニア新実験線試掘調査	39

III 県内の概況

1 調査の件数と状況	41
1991年度発掘調査一覧	43

例 言

1. 本書は、1991年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集から刊行までの作業は、年報編集担当高野玄明、五味信吾が行った。
3. 今年度の発掘調査一覧および資料の掲載は3月末日現在で集計したものである。
4. 第Ⅱ章の発掘調査概要の発掘調査面積の()内は調査対象面積である。

職 員 組 織

所 長 磯 貝 正 義
次 長 長谷川 裕 彦
総務課課長 長谷川 裕 彦
調査研究課課長 森 和 敏

調査研究課

泉道・公園調査担当

主 査・文化財主事 末 木 健
主 査・文化財主事 小 林 広 和
副主査・文化財主事 八 巻 興志夫
文 化 財 主 事 山 本 茂 樹
文 化 財 主 事 高 野 玄 明
文 化 財 主 事 村 松 利 恵 子
文 化 財 主 事 吉 岡 弘 樹
文 化 財 主 事 今 福 利 恵

リニア・テクノ調査担当

副主査・文化財主事 小 野 正 文
主 任・文化財主事 出 月 洋 文
主 任・文化財主事 保 坂 康 夫
文 化 財 主 事 平 山 優
文 化 財 主 事 保 坂 裕 史
文 化 財 主 事 早 川 典 孝
文 化 財 主 事 森 原 明 廣

総 務 課

総 務 担 当
副 主 査 千 葉 善 和
主 任 佐々木 小百合
主 事 土 屋 久 明
業 務 員 小岩井 昇
業 務 員 有 泉 百 合 恵
業 務 員 芦 沢 義 宏

中部横断道・広域農道調査担当

副主査・文化財主事 新 津 健
副主査・文化財主事 一 瀬 新一郎
副主査・文化財主事 米 田 明 訓
主 任・文化財主事 中 山 誠 二
文 化 財 主 事 丸 山 哲 也
文 化 財 主 事 浅 利 司
文 化 財 主 事 兀 味 信 吾
文 化 財 主 事 保 坂 和 博

I 1991年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は14遺跡の発掘調査と9事業にかかわる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設14、ダム建設1、公園整備2、学術調査1、リニア建設2、建物建設3となる。調査は4月下旬から3月中旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、II章で述べることとする。



1991年度発掘調査位置図

番号	遺 跡 名 他	番号	遺 跡 名 他
1-①	古代官衙・寺院址詳細分布調査(長谷寺)	12	長田口遺跡
1-②	" (大積寺)	13	平野遺跡
1-③	" (放光寺)	14	外ガイド遺跡
2	甲ツ原遺跡	15-①	ハケ岳広域農道建設予定地
3	前の山狼煙台跡	15-②	県道石和石橋線建設予定地
4	宿尻遺跡	15-③	ツリータウン千塚団地建設予定地
5	甲府城跡(県指定史跡)	15-④	県道韭崎榑形豊富線建設予定地
6	西の入・篠八田遺跡	15-⑤	国道411号建設予定地
7	新居道下遺跡	15-⑥	県道塩平窪平線建設予定地
8	二本柳遺跡(甲西バイパス)	15-⑦	富士川西部広域農道建設予定地
9	二本柳遺跡(農道)	16	甲西バイパス建設予定地
10	東山北遺跡	17	リニア新実験線建設予定地
11	米倉山B遺跡		

※ 番号は、第II章の遺跡名他に記す番号と合致する。

2. 整理事業

今年度は、下記の整理を行った。

No.	遺 跡 名	発掘年度	事 業 名
1	古代官衙・寺院址詳細分布調査	1991	古代官衙・寺院址詳細分布調査
2	甲ツ原遺跡	1991	県道須玉ハケ岳公園線建設
3	塩川遺跡・前の山狼煙台跡	1991	塩川ダム建設
4	宿尻遺跡	1991	県道穴山停車場線拡幅
5	甲府城跡(県指定史跡)	1991	舞鶴城再整備事業

No	遺 跡 名	発掘年度	事 業 名
6	西の入・篠八田遺跡	1991	ハケ岳広域農道建設
7	新居道下遺跡	1991	甲西バイパス建設
8	二本柳遺跡（甲西バイパス）	1991	〃
9	二本柳遺跡（農道）	1991	富士川西部広域農道建設
10	東山北遺跡	1991	甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備
11	米倉山B遺跡	1991	テクノポリス建設
12	長田口遺跡	1991	富士川西部広域農道建設
13	平野遺跡	1991	林業技術センター建設
14	外ガイド遺跡	1991	リニア新実験線建設
15	ハケ岳東南麓ほか遺跡分布調査	1991	ハケ岳広域農道建設などの遺跡確認調査
16	甲西バイパス地内試掘調査	1991	一般国道52号（甲西バイパス）建設
17	リニア新実験線試掘調査	1991	リニア新実験線建設
18	天神遺跡	1972	県営圃場整備

3. 発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No	報 告 書
第66集	青木北遺跡・梅の木遺跡
第67集	大月遺跡
第68集	西の入遺跡・篠八田遺跡
第69集	善光寺北遺跡
第70集	塩川遺跡
第71集	甲ツ原遺跡
第72集	二本柳遺跡（農道）
第73集	地耕免遺跡
第74集	県指定史跡甲府城跡Ⅱ

4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は、以下の収蔵資料を貸し出した。

No	貸出期間	申 請 物 件 名	申 請 者	利 用 日 的
1	4.26～5.17	村前東遺跡出土 甕4点 " 高坏5点 " 器台4点 " 壺1点 " ひさご壺1点 " 小型上器2点 長田口遺跡出土 深鉢形上器3点	裾形町教育委員会	町内出土品展示会に展示のため

No	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
		長田口遺跡出土甕4点 " 台付甕2点 " 甕(残欠)1点 " 高坏2点 " 土師質土器2点 " 内耳土器1点	構形町教育委員会	町内出土品展示会に展示のため
2	5.17～7.10	上野原遺跡出土深鉢形土器1点 一の沢遺跡出土深鉢形土器1点 宮の前遺跡出土深鉢形土器1点 水香場北遺跡出土深鉢形土器1点 安道寺遺跡出土深鉢形土器1点 重郎原遺跡出土深鉢形土器9点 " 浅鉢形土器2点 西田遺跡出土深鉢形土器1点 金生遺跡出土土器17点 上の平遺跡出土壺1点	神戸市立博物館	「東西の縄文土器」展に展示のため
3	6.1～10.12	一の沢西遺跡出土深鉢形土器5点 甲ツ原遺跡出土深鉢形土器2点 上の平遺跡出土台形土器1点 一の沢西遺跡出土有孔罎付土器1点 安道寺遺跡出土有孔罎付土器1点 一の沢西遺跡出土土偶2点 西田遺跡出土土偶1点 御坂町黒駒出土土偶複製1点	福島県立博物館	「縄文絵巻」展に展示のため
4	7.16～8.31	獅子之前遺跡出土縄文土器10点 " 水晶製石鏡1点 " 水晶原石5点 " 平安時代土器14点	塩山市教育委員会	「塩山市の埋蔵文化財展」に展示のため
5	10.10～10.31	御坂町黒駒出土土偶(複製)1点	御坂町教育委員会	複製資料製作の参考のため
6	2.15～2.17	外ガイド遺跡出土縄文土器(埋蔵)2点	大月市教育委員会	初狩町民文化祭に展示のため

今年度は以下の掲載許可申請があり、許可した。

No	日付	申請物件名	申請者	利用目的
1	4.12	金生遺跡配石遺構全景1点 釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	雄山閣出版株式会社	「日本村落史講座」に掲載
2	4.28	上野原遺跡出土深鉢形土器1点	神戸市立博物館	展示会ポスター等に使用
3	6.4	一の沢西遺跡出土深鉢形土器5点 甲ツ原遺跡出土深鉢形土器2点 上の平遺跡出土台形土器1点 一の沢西遺跡出土有孔罎付土器1点 安道寺遺跡出土有孔罎付土器1点 一の沢西遺跡出土土偶2点 西田遺跡出土土偶1点 御坂町黒駒出土土偶複製1点	福島県立博物館	展示図録「縄文絵巻」に掲載

No	日付	申請物件名	申請者	利用目的
4	6.22	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	塩山市史編さん委	「塩山市史編さんだより」に掲載
5	6.28	安道寺遺跡出土有孔罎付土器1点	柳岩波書店	「岩波日本美術の流れ」に掲載
6	11.12	一の沢西遺跡出土土偶1点	県生活文化課	「山梨県史だより」2号に掲載
7	11.26	鏡子塚古墳出土木製品(木の埴輪)3点 " 復元写真1点 " 壺形埴輪1点	雄山閣出版株式会社	「古墳時代の研究」第9巻に掲載
8	11.26	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	榑小学館	新編「名宝日本の美術」第33巻に掲載
9	11.26	金生遺跡出土状況及び出土遺物	大泉村教育委員会	金生遺跡パンフレットに掲載
10	1.13	天神遺跡出土硬玉製大珠1点	榑同朋舎出版	藤田富士夫著「玉とヒスイ」に掲載
11	1.23	安道寺遺跡出土有孔罎付土器1点	長沢宏昌	「考古学ジャーナル」掲載論文に使用
12	2.28	釈海堂遺跡出土土偶集合写真1点	安城市歴史博物館	同館編のガイドブックに掲載
13	8.10	釈海堂遺跡出土土偶集合写真1点	山形眞理子	南山大学宗教学研究機関紙論文に使用

5. 遺跡調査発表会

当埋蔵文化財センターでは、県内で発掘された遺跡のうち、主なものについて山梨県考古学協会と共催で毎年2回の遺跡調査発表会を実施している。今年度は以下の8遺跡について行った。また、下半期の発表会では、本年度の県内埋蔵文化財の調査と保護について、県教育委員会文化課から報告が行われている。以下これらの遺跡を取り上げ、その概要を述べていきたい。

◎ 1991年上半年遺跡調査発表会概要（10月5日 於甲府市総合市民会館）

1. 上北田遺跡 北巨摩郡白州町横手字上北田

本遺跡は、尾白川と大武川にはさまれた河岸段丘に立地する。遺構は、縄文時代前期初頭の住居址22軒、平安時代以降の住居址3軒、中世のものと思われる掘立柱住居址2軒、土坑220基、溝状遺構などがある。遺物については、縄文前期初頭の土器が量質ともに豊富である。特殊なものとしては滑石製の魚形ペンダントが出土している。

2. 屋敷添遺跡 北巨摩郡明野村上手字屋敷添

本遺跡は、茅ヶ岳山麓の西端、塩川上位段丘上の微高地に位置する。縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）から後期中葉（加曾利BⅡ式期）と平安時代の複合遺跡である。その主体は縄文時代後期の遺構、遺物であり、配石遺構8カ所以上、埋設土器10個体、住居址2軒、土偶1点、スタンプ型土製品1点などである。このうち、配石遺構には立石、丸石を伴う石組遺構や集石遺構、小環状列石などがある。住居址は柄鉢形住居址1軒、入口と炉部に敷石を有し、掘り込みの内側に小竈をめぐらせた隅丸方形の住居址1軒が検出された。

3. 米倉山B遺跡 26頁参照

4. 甲府城跡 14頁参照

◎ 1991年度下半年期遺跡調査発表会概要（3月7日 於甲斐風土記の丘研修センター）

5. 一条氏館跡遺跡 西八代郡三珠町上野

本遺跡は甲府盆地縁辺の北向きに台地上に位置し、広域農道を挟んで南側の台地には弥生時代の住居址や方形周溝墓が検出された上野遺跡が存在する。今回の調査では縄文時代前期前半の住居址3軒、前期末の住居址1軒、中期の住居址4軒、早期の土坑1基、中期の土坑2基、前期後半の竪穴状遺構1基、弥生時代の遺構としては方形周溝墓13基、住居址3軒、土坑1基が検出された。なお、本調査に先立つ試掘調査では古墳の石室が1基発見され、馬具・金環・須恵器などが出土した。

6. 平野遺跡 30頁参照

7. 古代官衙・寺院址詳細分布調査 6頁参照

8. 下部町湯之奥金山遺跡 西八代郡下部町湯之奥

山梨県と静岡県との境に位置する毛無山山中に中世から近世にかけて存在した中山・茅小原・内山の三金山は併せて「湯之奥金山」と呼ばれるが、この金山跡にかかわる総合調査が3年計画で実施された。遺跡は、金山沢を挟んだ谷部・沢筋・登山道沿いに展開する作業・居住域と尾根上・斜面を中心に分布する坑道域に大別される。作業・居住域には、124カ所のテラスがあり、このうち「精錬場」とされる場所からは建物址にかかわる石組みや精錬炉と考えられる土坑などが確認された。遺物は17世紀後半以降のものが多いが、16世紀のものも少量ながら出土した。坑道域では、金山沢から北側尾根部にかけての急斜面に15箇所以上の坑道が存在するほか、尾根上には試掘坑と思われる窪みが認められた。

6. 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

日 時	1992年2月14日
場 所	甲斐風土記の丘研修センター講堂
研修テーマ	遺跡・遺物の写真撮影

当センターでは年に1回、市町村の埋蔵文化財発掘担当者を対象に研修を実施している。本年は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部考古第一調査室の牛島茂氏を講師に招き、「遺跡・遺物の写真撮影」と題し講演をいただいた。午前は遺跡写真の適切な撮影方法について解説を受け、また午後は遺物の撮影について機材を使いながらの実技指導を通して理解を深めた。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 古代官衙・寺院址詳細分布調査

所在地	①春日居町長谷寺	②一宮町大積寺址	③塩山市放光寺
事業名	学術調査		
調査期間	1991年11月20日～12月13日		
調査面積	400㎡		
担当者	末木 健、高野玄明		

昨年度は、古代官衙・寺院址の指標となる布目瓦の表面採集を主に県内全域の分布調査を行ない、今年度は、昨年の調査結果をもとに3カ所の寺院及び寺院址の試掘調査を行った。

① 春日居町長谷寺

長谷寺は、『寺記』及び『甲斐国志』によると、奈良時代養老6年(722)に有名な僧、行基によって創建されたとしている。現在は、本堂と石造物を遺すだけである。今回は、発掘調査を承諾して下さった、長谷寺住職黒川桂應氏による長谷寺裏山の案内などをもとに、試掘調査を行った。その結果、長谷寺裏山に存在する堂跡の2カ所の調査、五輪塔集中箇所、テラス部分、長谷寺境内等にトレンチ発掘、清掃などを行った。堂跡の調査では、本堂北側60m程登った山中に、開山堂と呼ばれる堂跡がある。山林部分の伐採、腐食土の除去を行った後、礎石の確認を行った。礎石は2間×3間の堂跡である。さらに、50m程登った所に竜頭と呼ばれる堂跡があり、礎石を検出したところ、やはり2間×3間の堂跡であることが確認された。また、竜頭堂跡東側集石部分に鎌倉初期と思われる瀝美・常滑の陶器片が出土している。五輪塔群の調査では、五輪塔下の平石の除去を行い、下部に遺構は確認されなかったが、土師質土器や鉄銭が数点出土している。境内のトレンチでは、1点ではあるが布目瓦や、平安時代後半の甕や土師器片が出土している。

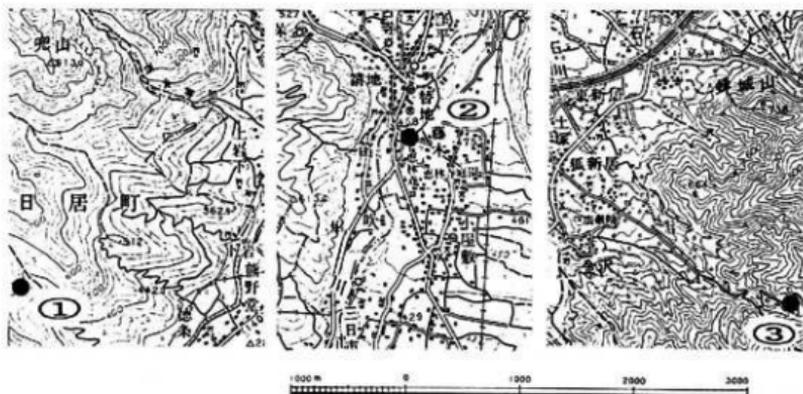
② 一宮町大積寺址

中世以前において、甲斐園分寺の創立を迫って創建されたという大積寺は、遺された記録は見られず、現在は廃寺となっている。調査は、旧寺院境内と言われている場所に試掘トレンチを設定し、掘り下げを行い、遺構や遺物の有無を確認した。トレンチからは、土師質土器や灰釉陶器、布目瓦などが出土している。瓦は飾瓦1点の他、丸瓦や平瓦で、丸瓦は玉縁部分、内面には布目が見られ、赤褐色を呈する。今回の調査では、遺構は建物などの跡は確認できなかったものの、溝が2本確認された。溝底面は砂層で、かつて流路であったと思われる。遺物の出土について、一部黒色土内に遺物の集中箇所が見られた。また、焼土層が面的な広がりが見られることから土器焼成遺構の可能性も考えられるが、ほとんどの土器の口縁部分が欠けており、このことから、加持祈禱場の要素があることも考えられる。

③ 塩山市放光寺

放光寺は、寿永3年(1184)に創建され、本尊の木造大日如来坐像、木造不動明王立像、木像愛染明王坐像などは、藤原末期作で国の重文に指定されている。今回の調査では、住職の清雲俊元氏の御教示により、トレンチを設定した。目立った遺構は出ていないが、布目瓦1点と土師質土器の土器片が僅かに出土した。

今年度は、3カ所の寺院及び寺院址の試掘調査を行ったが、長谷寺や大積寺址は奈良時代の創建を裏付ける出土遺物や遺構は確認できなかった。しかし、平安時代から中世にかけてそれぞれの寺院が繁栄していたことが確認されたのは、大きな成果といえる。



古代官衙・寺院址試掘調査位置図



長谷寺境内調査風景



長谷寺竜頭堂跡

2. 甲ツ原遺跡

所在地 北巨摩郡大泉村西井出
 事業名 県道須玉八ヶ岳公園線建設
 調査期間 1991年5月17日～12月27日
 (第3次調査)
 調査面積 1,800㎡
 担当者 山本茂樹、今福利恵



甲ツ原遺跡位置図

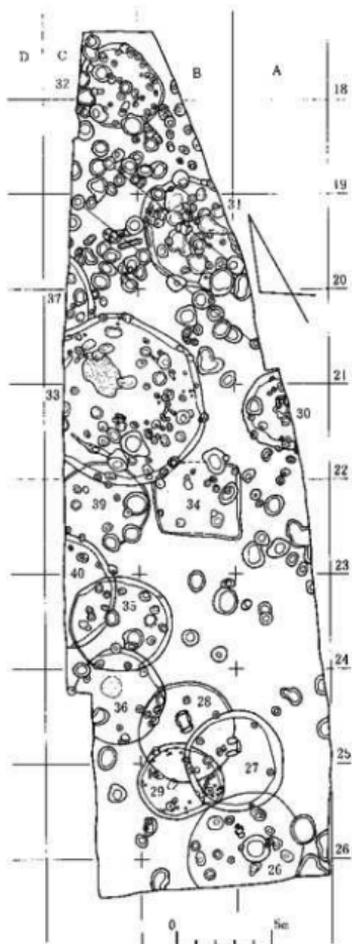
本遺跡は、八ヶ岳の南麓に位置しており、油川と甲川に挟まれた台地に立地する。本年は第3次の発掘調査となり、昨年度の残りの部分及び未買収地区の発掘調査を行った。

調査は、昨年設定したA区・B区及び今回新たに設定を行ったC区である。A区・B区・C区と調査を行ったところ、3区ともに確認面まで比較的浅く、特にA区の調査区域南側とC区は浅く耕作による攪乱が著しかった。

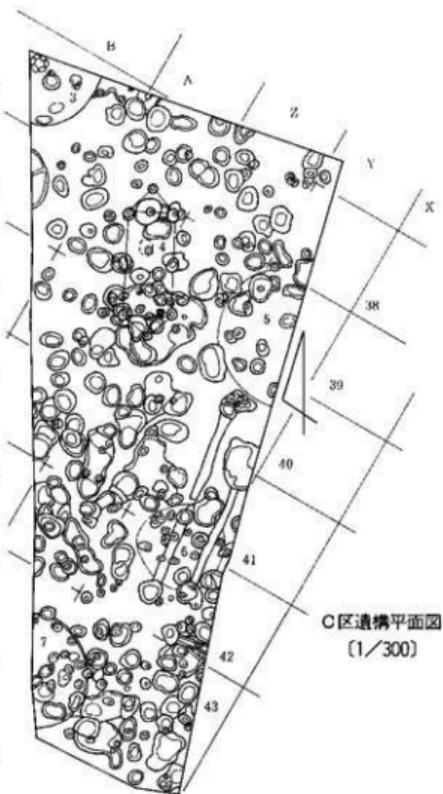
まず、B区では旧河川がほぼ北から南に傾斜をもってA区に及んでいる状態が認められた。A区では、昨年の引き続きの箇所及びその南側部分の試掘調査を行った所で、縄文時代前期前半1軒、諸磯Ⅱ式1軒・中期13軒の計15軒の住居址が確認され、中期後半と思われる掘立柱建物跡1棟・前期～中期後半の土壌約150基が発見された。縄文時代前期前半の土器を出土した34号住居址は、本遺跡では初めての発見で、方形のプランを呈し中央に地床炉を有するものである。30号住居址は、埋甕の施設を伴い、土器は曾利Ⅴ式で正位に埋められている。また、33号住居址は本遺跡中最も規模が大きく長径は9mを越え、拡張された痕跡を残している。本住居址もまた埋甕が発見され、正位に置かれた埋甕は曾利Ⅲ式であった。35号住居址は、36・40号住居址と切り合い関係にあり、本住居址の炉から獣骨が検出されている。

C区では、縄文時代中期の住居址が8軒確認され、このうち4号住居址は掘立柱建物跡である。土壌総数は170基で、未買収地区を含めるとその数はさらに増えるものと考えられる。C区もまた確認面までが浅く、住居址の壁が確認されたのは7・8号住居址のみであった。

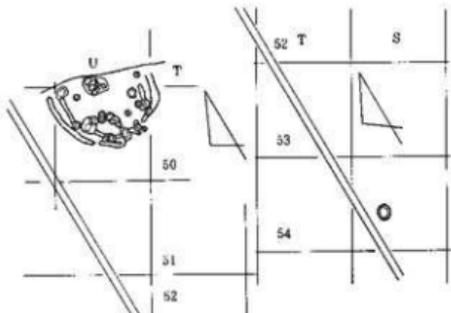
4・5号住居址は、早くから炉が確認されていたが、壁及び床面は認められず4号住居址については柱穴から掘立柱建物跡であることが判明した。5号住居址の範囲は推定である。6号住居址は、石囲炉を持ち遺物の量も豊富である。本住居址も耕作による攪乱が激しかったため壁はこわされ、住居の範囲は推定にとどまる。8号住居址は、県道予定地の南端に位置しており、本住居址から南には土壌が1基確認されたのみである。このことからC区の集落の広がり的一端が明確となった。



A区遺構平面図
[1/300]



C区遺構平面図
[1/300]



C区遺構平面図 [1/300]

甲ッ原遺跡全体図

3. 前の山狼煙台跡

所在地 北巨摩郡須玉町比志
 事業名 塩川ダム建設
 調査期間 1991年5月7日～9月17日
 調査面積 2,500㎡
 担当者 保坂裕史、森原明廣



前の山狼煙台跡位置図

塩川ダム建設にともなう事前発掘調査は、1989年度より3カ年をかけて行われた。はじめの2年間で、ダム建設予定地内の旧塩川集落跡の調査を行い、今年度は、旧塩川集落跡の南側に位置する前の山の調査を行った。

前の山は、塩川の支流である本谷川と釜瀬川の合流点のすぐ南にあり標高990.191mを測る。山頂には、広さ40㎡の平坦地があり、中央には明治期に安置された小御嶽神社と浅間神社の石祠が祭られている。山頂から北方には、「神戸の城山」をはじめ、県境の信州峠へ連なる山波を望み、東方には本谷川沿いに増富温泉方面へ続く山波を望む。また、南方には「比志の城山」「大波の狼煙台」「獅子吼城」を一望することができる。眺望についての環境は、従来唱えられる『狼煙台』の立地条件を十分に満たすものと考えられる。

発掘調査に際しては事前調査を行い、工事範囲内の山頂部から北方へ延びる尾根上に曲輪と考えられる平坦部の存在を確認していた。よって本調査はこの尾根を中心に山頂より水平距離にして長さ約100m、幅約25mの範囲を対象に実施した。

調査は、まず大規模な遺構（堀切・曲輪等）の存在を確認するために、幅約1mのトレンチを任意設定し開始した。その結果、数段の曲輪状のテラスを確認し、全体的な掘り下げへ移行し、遺構・遺物の検出につとめた。

曲輪は、主郭を除いて少なくとも3つ存在したと思われる。中でもCテラス（96㎡・標高975m）は人為的な構築がセクションから確認される。Dテラス（80㎡・標高963m）とBテラス（64㎡・標高980m）については、自然の地形である。いずれも欄列跡・柱穴跡は、検出されなかった。山頂の主郭部（Aテラス…40㎡）も基本的には自然地形を利用しているが、南側から西側にかけて石垣が良好な状態で残っている。特に南側の石垣は、極めて残りの良さが特筆される。近接する獅子吼城の石垣と素材、構築方法が類似している点で、中世的な様相を示す。

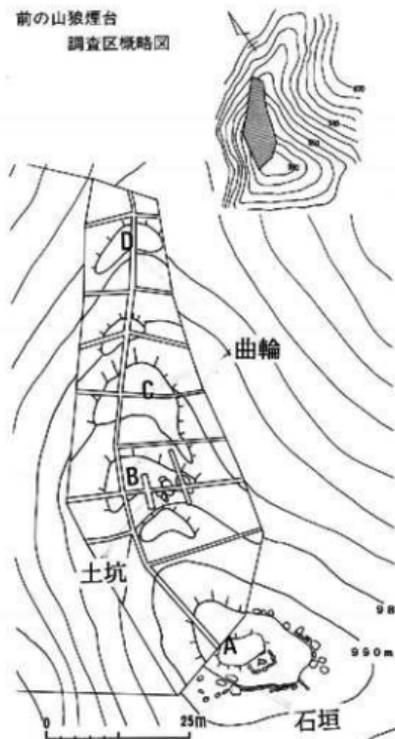
遺物については、調査区全域についてまったく出土していない。

その他の遺構については、Bテラスから11基、Cテラスから1基の土坑が検出された。Bテラスの土坑の覆土は、下層部において炭化物層と焼土層が交互に堆積する特徴がみられる。遺物の検出が認められなかったために時期や性格を想定する決定的な手がかりはないが、それぞれの土坑の深さが比較的小さいことと、炭化物の大きなブロックが多く混じっていること、さら

には、遺物の検出が認められなかったことを考えると、近世から現代にかけて行われた伏せ焼き（炭焼きの一種）の遺構である可能性が高い。Cテラスの土坑については、炭化物のチップを含むもののBテラスとは様相が異なりその性格は不明である。

前の山狼煙台の発掘調査は、塩川流域に存在するとされる多くの小規模城郭（特に狼煙台）の実態究明に目的があったともいえよう。しかしながら、発掘調査の結果は人為的に構築されたCテラス、山頂部の石垣などは確認されたものの、時期を断定することはできない状況である。つまり、前の山狼煙台を『狼煙台』あるいは『城郭』と断定することは不可能であるといわざるを得ない。今後、周辺地域における発掘調査等により明確な狼煙台遺構が把握されることを期待するとともに、小規模城郭のあり方を再考する機会として調査成果をとらえておきたい。

前の山狼煙台
調査区概略図



Cテラス北端



山頂部南側の石垣

4. 宿尻遺跡

所在地 韮崎市穴山町字宮窪 4453-3 他
事業名 県道穴山停車場線拡幅工事
調査期間 1990年5月28日～8月1日
調査面積 250㎡
担当者 中山誠二、丸山哲也



宿尻遺跡位置図

本遺跡は、甲府盆地の北西部韮崎台地の中央部に位置し、標高540m前後の平坦面に立地する。この台地は通称「七里岩」とも呼ばれ、

八ヶ岳泥流によって形成された八ヶ岳南麓から甲府盆地西北部へ延びる細長い台地である。

遺跡の周囲には現在桑畑が広がり、遺跡北側には今回拡幅される県道によって約3m程の切り通しがみられる。昭和初期に実施した道路工事中に縄文土器が出土し、旧穴山小学校に保管されていたとされる。また、遺跡南側には新府城の防壁で知られる能見城が存在する。遺跡を西に下ると次第窪、東には伊藤窪とよばれる集落が展開し、最近まで遺跡近くには湧水が存在したとされる。

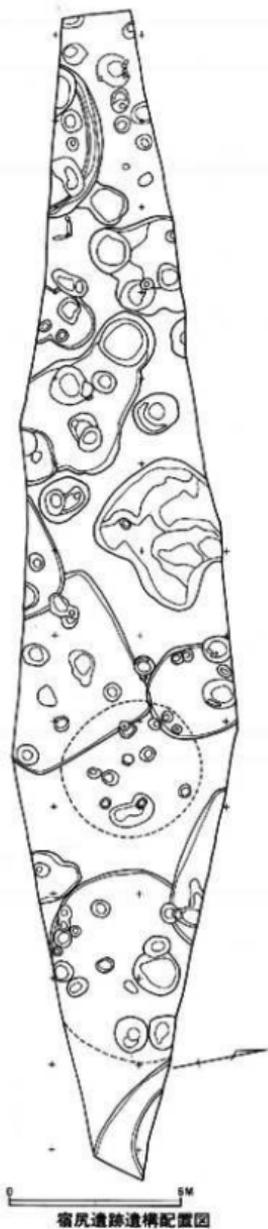
調査の結果、縄文時代中期の堅穴住居址6軒、土壇39基、屋外埋壘1基、古墳時代初頭の堅穴住居址3軒が検出された。遺構確認面はいずれも地表下50cm程であるが、表土直下から大量の遺物が出土している。遺構の残存状況は、比較的良好であるが、縄文期の住居址の中には壁が削平され、柱穴と炉址のみが確認されたものが3軒存在する。

縄文時代の遺構は、調査区全体に認められ、切り合いが著しい。特に、調査区西側では7号住、9号住、10号住および土壇群が密集する。住居址は、調査区が狭いため完掘例が少ないが、形態は円形から楕円形を呈するものが多く、規模は直径4mの小型のものから8m前後の大型住居が存在する。中期後葉の住居址では石囲炉の石が抜き取られ、掘り方のみが認められる例が多い。4号住では入り口部分に屋内埋壘が2カ所確認された。

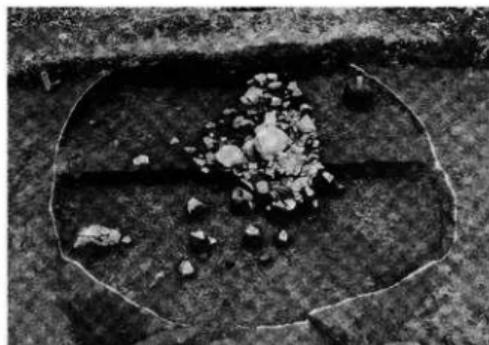
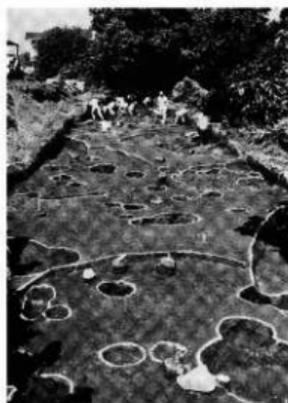
土壇は、断面形態が摺り鉢状や円筒形を呈するものがあり、機能的にも分類される可能性をもつ。25号土壇からは深鉢の顔面把手と石棒が出土している。

古墳時代の遺構は調査区中程に認められる。2号住、5号住は調査区外にのび、全体規模は不明であるが、平面形態はコーナー形態から隅丸方形を呈するものと推定される。3号住は、一辺6mほどの隅丸方形プランを呈する。

遺物は、みかん箱大のプラ箱で70箱と非常に多く、そのほとんどが縄文土器および石器である。縄文土器は中期中葉から後期前葉まで存在するが、中期後葉の曾利式の資料が量的にもっとも多く、この中には唐草文系の土器など外来系の土器群もわずかに認められる。縄文時代の石器は磨石など植物加工具がもっとも多く、打製石斧、磨製石斧、石鎌は相対的に少ない。他に、土偶が14点検出されている。



宿尻遺跡全景



6号住居址



8号住居址ビット内土器出土状況

5. 甲府城跡 (県指定史跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目5番地内
 事業名 舞鶴城公園整備事業
 調査期間 1991年4月8日～1992年3月31日
 調査面積 7,300㎡
 担当者 八巻與志夫、吉岡弘樹、村松利恵子



県指定史跡 甲府城位置図

本調査は、山梨県土木部によって昨年度から10年計画で行われている舞鶴城公園整備計画に伴った調査の2年次である。

本年度調査を実施した箇所は、昨年度から継続の人質曲輪、稲荷曲輪、人質曲輪北石垣下、堀（遊亀橋東）、今年度の石垣復元修理工事箇所である堀（遊亀橋東・西及び石垣天端の鍛冶曲輪）、さらに今後整備が予定されている数寄屋曲輪、及び数寄屋曲輪西石垣下、花畑曲輪の南である。

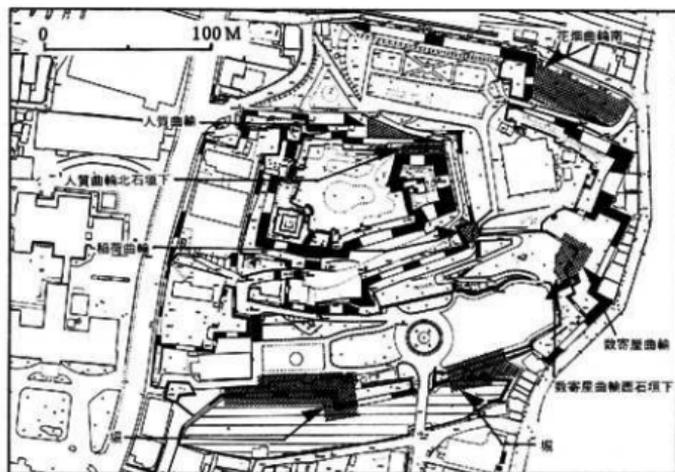
昨年度からの継続調査を行った人質曲輪では、人質曲輪北石垣の裏込の栗石中から金箔瓦が出土した。稲荷曲輪では、明治期のもと思われる水路跡を8m80cmにわたって確認した。人質曲輪北石垣下は、昨年度のトレンチ調査で桃山期の作風の風神（あるいは雷神）を付した鬼瓦や鯱等が出土したが、今年度は調査面積を広げ既に大量の瓦とともに浅野家の家紋“違い鷹の羽”を付した軒丸瓦や金箔を施した鯱瓦が数点出土している。現在も調査を進めているので更に多数の出土が予想される。

今後整備が予定されている箇所の調査は以下の通りである。数寄屋曲輪は、絵図により二層の数寄屋構（築城当時は三重か）がおかれていたことがわかっている。この台倉石垣の復元修理工事に先駆けて、地中レーダーによる調査を行ったところ、礎石の存在が推定されるので、今年度末からの確認調査の実施を予定している。数寄屋曲輪西石垣下は、調査開始時点での地表面から根石までは1～4.5mあり、この間で“違い鷹の羽”の軒丸瓦を含む大量の瓦が出土した。これらは、石垣直上の数寄屋曲輪に運らされた辦ののっていたものが廃棄のため落とされたり、廃城時に城内各所からまとめられたものと思われる。数寄屋曲輪から鍛冶曲輪への階段をはさんで南側からは、瓦層に多くの漆喰が含まれていたが、これは前述の数寄屋構のものと考えられる。根石の基盤面へ、トレンチ調査を実施したところ厚さ2～2.5mの版築層が検出され、地盤の弱い粘質土層上に充分な版築を行ってから石垣を積み出したことが確認された。花畑曲輪の南は、かつては民間に払い下げられて建物が建っていたり、地下にはガス管が配されているなどかなりの攪乱を受けている。絵図では南北方向に堀が描かれているので、その堀の範囲と堀底の調査を実施したが、堀底を確認するにはいたらなかった。なお時期は明らかではないが、素焼きの甕2点出土している。

今年度石垣復元工事が行われている堀の調査では、まず石垣天端の鍛冶曲輪にトレンチ調査を実施し、曲輪面は粘質土と礫混じりの土の互層による5m前後の客土によって形成されていることを確認した。堀底の調査では胴木が検出され、甲府城の胴木の多くは松材が用いられていたが、遊亀橋の東の安政元（1854）年の大地震で崩れた部分の胴木は、県林業試験センターの鑑定結果から松ではなくクスギのような広葉樹であることが判明し、胴木の組み方が一様ではなかったことも明らかとなった。遊亀橋の東では、厚さ2m前後の暗褐色の粘土層上に松材及びクスギのような広葉樹を1.5～1.7m間隔でさお木として置き、その上に帽子桁2本を組んだ状態で部分的だが杭木も検出された。橋の西側では各面毎に段造成されて3種類の組み方が確認された。度重なる大雨のために10月に崩落した石垣部分では、さお木のみが大部分朽ちてわずかな木片が残っており、帽子桁等は検出されなかったが、その東に隣接する石垣ではほぼ完形で2本の帽子桁のみが検出された。そのさらに東の石垣では胴囲80cm程もあるさお木と帽子桁2本が組んであったが、橋東と異なる点はさお木の先端部が長く、その下部にはさお木に勾配をもたせるころばしが挟まれていた可能性があることである。胴木の復元工事にあたっては、最も遺存状況の良いこの組み方を採用した。遊亀橋西の崩落した石垣については、その天端と根石周辺に地中レーダー調査を実施したところ、変形地盤で土壌改良もなされないまま石垣が積まれていたらしいとの結果が出た。胴木の組み方及び遺存状況と石垣の裏込の構造と石垣の崩落との関係は、今後充分な検討を要する。

昨年度調査した天守台下東石垣は、8月には伝統的な石積工法「穴太積み」により築城時の姿を取り戻したが、以上の調査結果をもとに、今年度の石垣工事も近年では例のない胴木の復元がなされ堀の石垣もよみがえりつつある。

なお本稿は、1992年2月14日までの調査状況を要約したものである。



調査位置図



人質曲輪北石塚下 瓦出土状況



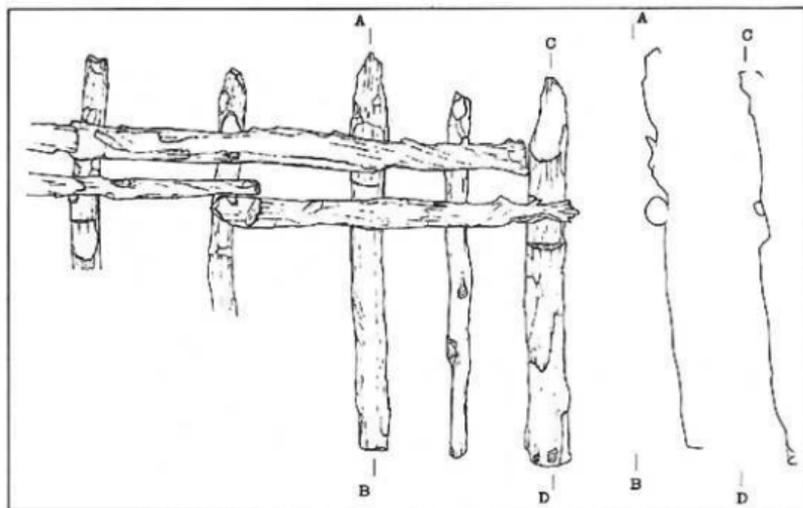
堀石塚復元工事風景



胴木検出状況



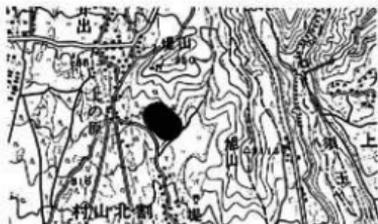
胴木組み合せ状況



堀(遊亀橋西)胴木平面断面図

6. 西の入・篠八田遺跡

所在地	①北巨摩郡高根町字西の入64他	調査面積	① 1,300 m ²
	②同郡小淵沢町上世尾字篠八田3331		② 360 m ²
事業名	八ヶ岳広域農道建設事業	担当者	浅利 司、坂保和博
調査期間	① 1991年 5月20日～7月31日		
	② 1991年 8月5日～9月30日		



西の入遺跡は1989年度、篠八田遺跡は1990年度の試掘調査により確認された遺跡である。

西の入遺跡は八ヶ岳南麓に数多く見られる八ヶ岳大噴火によってつくられた流れ山のひとつである堤山の南裾部、標高850 m前後に所在し、1988年に調査された妻ノ神遺跡が調査区南端部に接している。調査開始以前は小道および水田・桑畑として利用されていた。八ヶ岳南麓は標高1,000 m付近に自然湧水地帯が見られ、本調査区内にもいくつかの湧水地が点在しており水の豊富な地域である。

西の入遺跡の発掘対象地は1,300 m²であり、発掘区は調査の便宜上イ・ロ・ハ・ニ区に分けて設定した。調査の結果、縄文時代中期の土坑1基、時期不明の溝状遺構1基がニ区において確認され、遺物は縄文時代中期の土器が中心を占めている。また、発掘区南側地点（イ区）において確認された南北に走る自然流路には多量の石が流れ込んでおり、これらの流石の間より中期後半の曾利式期の土器片が多量に検出された。

今回の調査および妻ノ神遺跡の成果により、本遺跡の規模は北部及び周辺部に広がるものと思われる。

篠八田遺跡は編笠山南面海拔1,200 mの女取湧水より源を発する女取川によって開析された河岸段丘上の標高900 mの位置に立地している。調査は幅約9 m、長さ40 mの範囲において行われた。調査の結果、縄文時代中期の住居址1軒が確認された。遺物は縄文時代中期後半の曾利式期の土器が中心に出土しているが出土量が少なく、住居址内から若干まとまった資料が検出された。周辺の遺物分布状況より推察すると本遺跡の中心部は今回の調査区より北側になるであろう。

また、今回の調査によりローム層上面において幾筋もの自然流路が確認され多量の流石が検出された。これらの流路は大規模なものであることや、ローム層上面において確認されたことより縄文時代の遺跡とのかかわり、すなわち縄文時代の自然環境と人間とのかかわりを考える上で非常に重要なものである。

7. 新居道下遺跡

所在地	中巨摩郡若草町十日市場字新居道下1746外
事業名	一般国道52号(甲西バイパス)建設に伴う事前調査
調査期間	1991年7月22日～12月27日
調査面積	(7,200㎡)、1区3,000㎡、 2区1,500㎡
担当者	米田明訓、一瀬新一郎



新居道下遺跡位置図

本遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高270mを測る。遺跡はその扇端部に形成された北西から南東方向へ延びる微高地上に展開する。過去に実施された周辺の試掘調査の結果では遺跡北側では御勅使川の氾濫で運ばれた礫層が厚く堆積し、南側では泥炭層が堆積する。

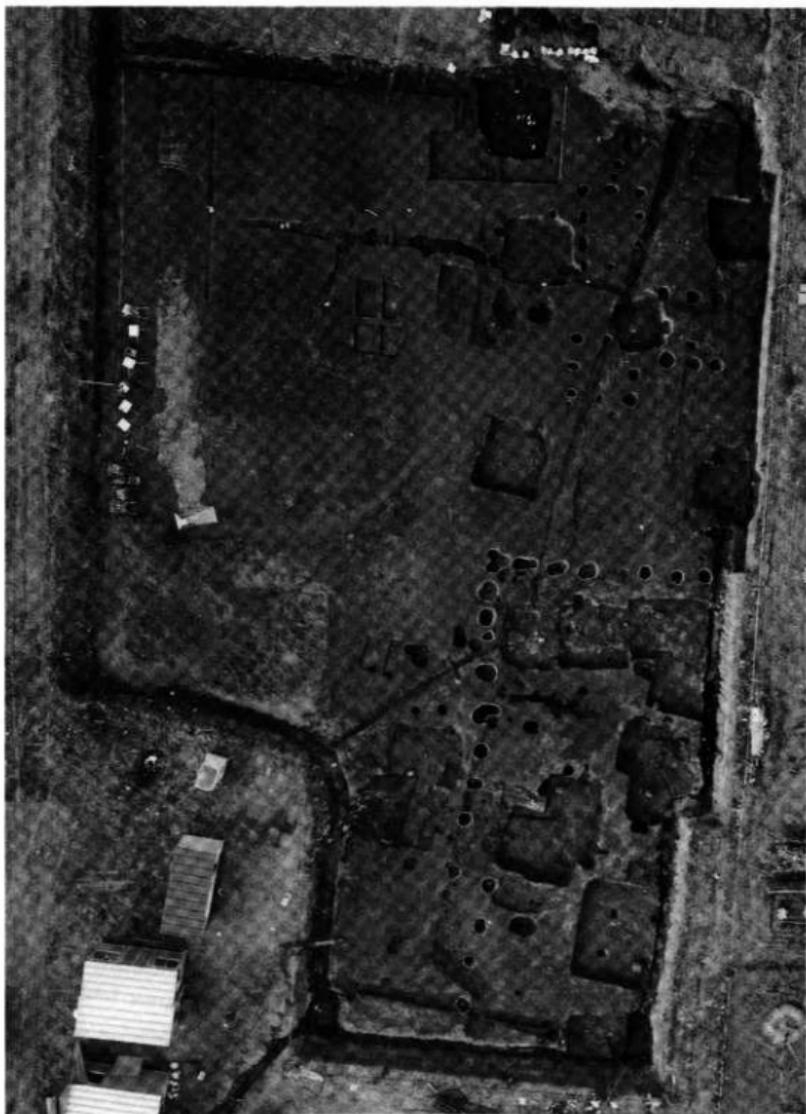
今回は、県道並崎・楡形・豊富線より北側を東西に走る町道を境に、南側を1区、北側を2区と二つの区域に分けて調査を実施した。昨年度に1区北東隅で畑地灌漑用パイプ移設工事に伴って調査が行われ平安時代の竪穴住居址等の遺構が既に発見されている(当センター「年報7」参照)。

1区では奈良時代と平安時代の住居址および近代の粘土探掘坑等が調査区北側で発見された。2区では調査区を中心より東側半分で奈良時代～平安時代の住居址・掘立柱建物跡・土坑等が多数確認され、峡西地域では初めて当該期の大規模な集落の存在が確認された。1区で発見された住居址等も2区のものと同じ集落を構成する遺構であろう。

確認された遺構は、奈良時代～平安時代の住居址23基・掘立柱建物跡3基・土坑41基・溝状遺構6基・河川跡1であるが、土坑群のうち20基ほどが直線的に配列されており、櫛列跡と考えられる状況を呈している。

また1区で確認された粘土探掘坑は3基であり、粘土層のみを広く掘り込んでいる。底面直上から近代の農耕具が発見されたため時代の確定ができた。覆土中からは奈良時代～平安時代の土器片が多量に出土しており、昨年度の調査でも当該期の住居址である可能性が示唆されていた。これは採掘後の埋土に周辺の当該期集落を薄く削平した土を利用したために起きた現象であろう。ここで採取された粘土が何に用いられたものであるかは今後検討する必要があるが、現在も若草町内で盛んな瓦生産に関連するものである可能性が強いと思われる。

奈良時代～平安時代の遺構からの出土遺物は土師器・須恵器が大勢を占めているが、胎土・焼成が今一つしっかりしていないことが気にかかる。今後遺物の整理作業が進めば峡北地域・峡東地域等の土器との差異が明らかになってくるであろう。



新居道下遗址2区航空写真

8. 二本柳遺跡 (甲西バイパス)

所在地 中巨摩郡若草町十日市場字二本柳
186 他

事業名 一般国道52号(甲西バイパス)
建設に伴う事前調査

調査期間 1991年8月28日～1992年1月4日

調査面積 8,400 m²

担当者 中山誠二、丸山哲也



二本柳遺跡位置図

二本柳遺跡は、甲府盆地西部にある御勅使川扇状地の扇端部から氾濫原に移る地帯の標高260

mに位置する。遺跡は、御勅使川はもちろん、

西を流れる滝沢川の氾濫の影響もうける地域である。遺跡周辺は、湧水からの小河川がいく筋も流れ、南東斜面を利用した水田地帯になっている。

本調査に先立って行われた昨年度の試掘調査では、中世の墓壇1基、その下層から畦畔が確認されていた。

本年度の調査対象面積は、遺跡総面積の33%である。調査は、東西にはする道路によって、南を1区、北を2区とした。まず、対象地域を7mのシートパイルで囲み、周囲に排水用の溝を掘り、排水を常時ポンプアップしながら発掘作業が行われた。

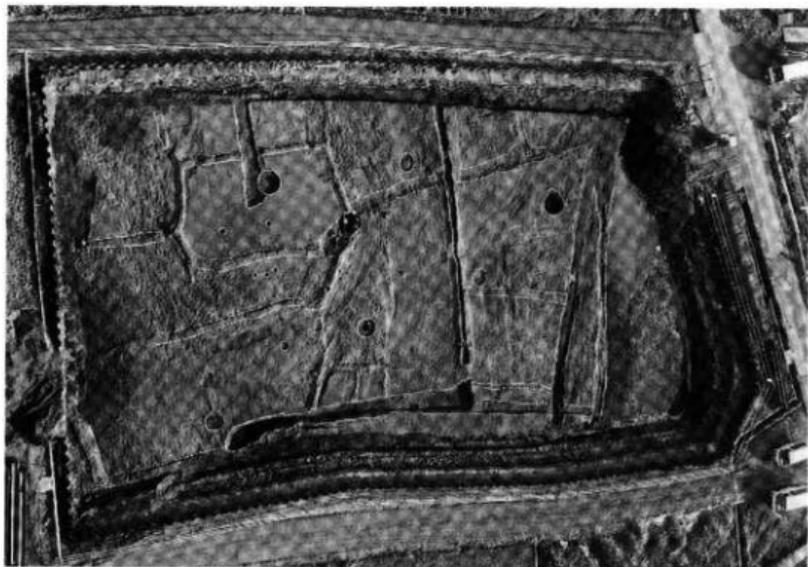
1区では、水田層直下より厚さ60cmの礫層があり、その下にはシルト及び粘土層が地表下4mまで続く。第1層目の水田面は、地表下1m程から東西に走る2条の杭列とともに検出された。杭列の北側には、西から東に向かう氾濫による礫層が堆積し、南側には、杭列に守られるように水田が広がっている。検出された畦畔は、幅40cm、高さ10cm程であった。杭列に伴う遺物から、江戸時代末の水田であると考えられる。

さらに地表下2m程には、古墳時代前期と弥生時代中期の遺物包含層が確認された。扇状地開発の歴史を解明する上で貴重な資料であるが、数が少なく、遺構も確認されていないことから、今後の資料集積を待ちたい。

2区では、3つの文化層が検出された。下層、中層は、水田であり、シルトと粘土による堆積が認められた。水田耕作が繰り返される中で徐々に、堆積したものと考えられる。中層の水田面上には、50cm程の礫層がある。この礫により2区の南端は、深さ2m、幅3m以上の開削を受けている。こうして堆積した礫により水田は廃棄され、中世には、本遺跡の東に位置していたと伝えられる「福寿院」(1991年度山梨県埋蔵文化財センター調査)に関連する施設が、存在したと推定できる。中世の遺構として、井戸7基、溝2条と柱穴が検出されたが、墓壇は試掘調査における1基のみであった。

2区の水田面は、層序的、遺物的にも平安～中世のものである。東西にはする大畦畔(中心部に溝を持つ)を基本に、南北の小畦畔が検出された。しかし、規則性は特に認められない。

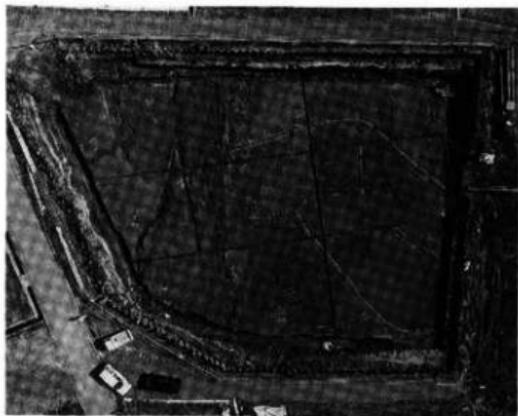
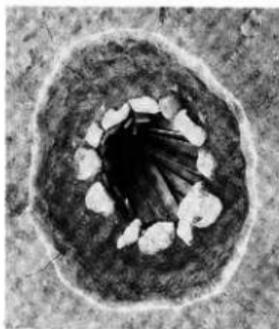
だが、2層とも基本的な畦畔が重複していることは、興味深い。また水田面から、斎串や馬の下顎骨・歯なども出土しているので、農耕にまつわる祭事が盛んに行われていたことが推測できる。



2区 中層水田全体写真

1区水田全体図

2区上層 6号#E



9. 二本柳遺跡 (農道)

所在地 中巨摩郡若草町加賀美字山宮地
 事業名 広域農道建設に伴う事前調査
 調査期間 1991年10月3日～12月10日
 調査面積 660 m²
 担当者 新津 健、五味信吾



二本柳遺跡 位置図

本調査は、甲西バイパスに接続する広域農道の建設に先立って行われた。遺跡は、加賀美遠光の館跡とされる法善寺の北西約150mのところの位置し、標高は約260mを測る。

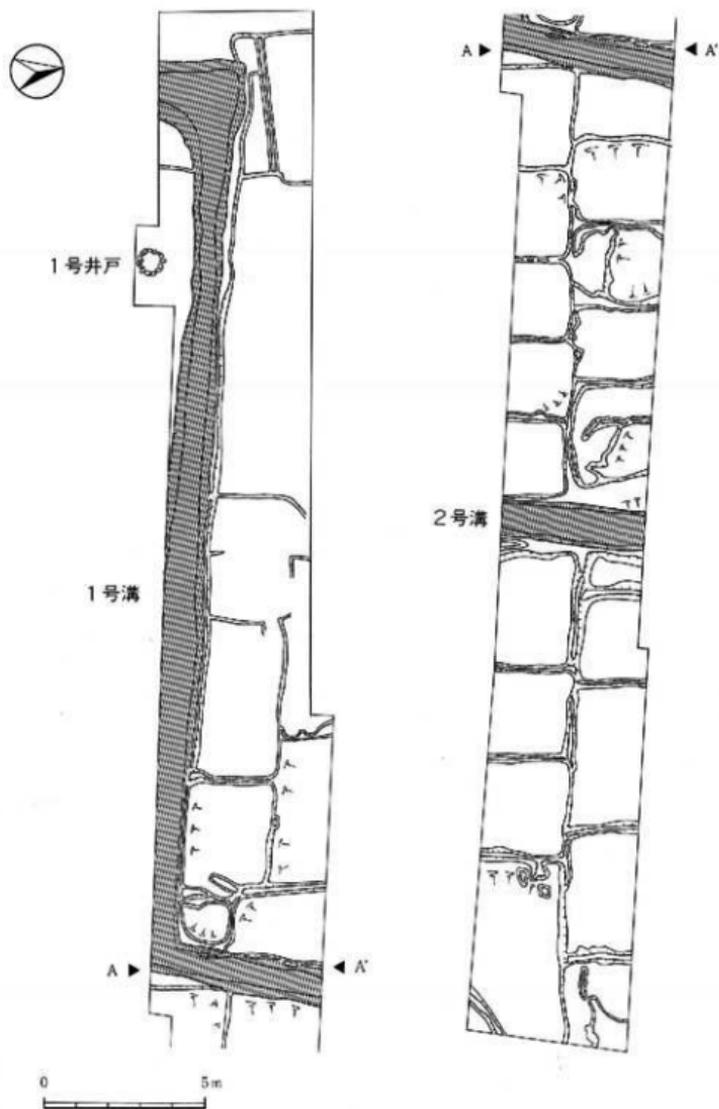
この地には、かつて法善寺の周囲に20以上あった塔頭の中でも特に規模が大きい「福寿院」という中・近世の寺院が存在していた。法善寺に現存する武田信玄から「福寿院」に送られた古文書によると、信玄が軍事行動を起こす際成功を祈って法華経の読経を命じていたことがわかる。この時期が「福寿院」の最盛期で、江戸時代の終わりから明治初頭には衰退し、田畑になってしまった。発掘区は、「福寿院」の境内と考えられる一辺100～120mの長方形の範囲のやや南より、東西に長い110m×6mの範囲である。このうち遺構、遺物が検出されたのは、東側の半分の地域に限られる。

主な遺構のうち、1号井戸は直径約50cmの円形の石組の内側に桶が残存していた。

1号溝は調査区の南端を東西に長く約35m、幅2mで伸びている。その両端でかき型に屈曲しており東端部では北に伸び、また西端部では南に伸びていることがわかる。溝は木の葉や枝を多量に含んだ泥状の土で埋まっており、漆の碗をはじめ、下駄、卒塔婆、木製の紡錘車、著など木器の出土が豊富である。土器類は土師質の皿(かわらけ)が最も多い。溝の比較的上層で、このような皿が15枚まとまった状態で出土しているが、ある程度溝が埋まった時期に意図的に並べられたと考えられる。このほか内耳土器や播鉢、北宋銭、五輪塔の部材なども出土しているが、これらの遺物は16世紀後半頃のものが多く。

1号溝の北側、1号溝と2号溝の間、2号溝より東側には、幅約2～2.5m程の間隔で粘土層を削って作られた高さ15cm、幅20cm程度の土手状の高まりによる区画が多数検出された。東西に長い中央の土手の南と北の区画は互い違いになっている。1号溝の北側部分からは五輪塔の部材、「こうがい」、北宋銭、鉄砲の玉、鉄軸小壺などが出土した。南北に延びる2号溝の西側には幅50cm程の土手が残っている。溝が埋まり、それから土手が作られたようで、その間にある程度の時期差を想定することができる。この付近からの遺物の出土は少なく、江戸時代の陶磁器片が目立つ。

調査は細長い範囲に限られていたが、戦国時代から江戸、明治に至る過程で土地の利用に変化があったことが明らかになった。これは「福寿院」の盛衰と深くかかわるものと推察される。



二本柳遺跡 遺構図

10. 東山北遺跡

所在地 東八代郡中道町下向山字東山
 事業名 甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園
 整備
 調査期間 1991年5月8日～8月19日
 調査面積 3,000 ㎡
 担当者 末木 健、高野玄明



東山北遺跡位置図

曾根丘陵のほぼ中央、大丸山古墳の東側に広がる平坦部に位置する東山北遺跡は、標高約300mを測る。調査は、甲斐風土記の丘曾

根丘陵公園建設に伴って昨年度から継続して行われ、本年度は2年次である。昨年度は、弥生時代後期の住居址5軒と、土器焼の長円形皿状ピット1基、このほか土坑・ピットなどが確認されている。今年度の調査では、昨年度と同時期の住居址13軒、溝状遺構14本、竪穴状遺構1基、ピット群等が確認されている。6号住は、西側壁に近いところに、台付甕などの一括遺物が見られた。炉は、削平されており不明である。覆土中には、炭化材・焼土がみられた。7号住は、北側に地床炉をもち、柱穴は明確でない。覆土には、焼土・炭化材がみられ、7号住と共に、火災住居と思われる。8号住は、長径7.5m×6mを測る大型の住居址で、壁直下に周溝が見られる。北側の部分は、削平されており柱穴も北西部の一本を除いては不明確である。8号住の南側では、幅50cm×深さ50cmのV字状の溝が半円形に囲む。8号住の西側では、5軒の住居址が切り合っており、溝及び重複している住居址が8号住を取り囲むように見られることから、この大型の住居址が集落にとって何か特別な意味をもつ住居址なのかもしれない。切り合っている住居址のうち、9号住の他、11号住、12号住には梯子受穴が見られ、9号住には内部より焼土、炭化材が多く見られた。11号住居の南壁部分では、周溝が壁を削っている状態で確認されている。13号住は、覆土中から炭化米がみられ、床面付近では集中している箇所が確認されている。溝状遺構は、弥生時代後期のものとしては、7溝、8溝、11溝に弥生時代後期の台付甕などの出土遺物がみられた。8号溝東部分を挟むようにピット群が見られ、このうちの1つには、小形壺等の一括遺物が出土している。8号溝西側部分のピット群は、半截しながら柱痕など調べたが、検出されなかった。竪穴状遺構は、遺構確認面から焼土が確認されたが、床面などは覆土によりはっきりせず、性格は不明である。

今年度は、前述したような成果が得られた。また調査と平行して表土剥ぎを行なったが、方形周溝墓と思われる遺構プラン・住居址などが確認されている。この部分の調査は来年度行う予定である。



東山北遺跡近景



発掘作業風景



東山北遺跡全体図

11. 米倉山B遺跡

所在地 東八代郡中道町米倉山大字下向
山3911-6ほか

事業名 テクノポリス建設

調査期間 1991年8月1日～1992年3月12日

調査面積 4,450㎡

担当者 小野正文、早川典孝、保坂康夫、
平山 優、末木 健、高野玄明



米倉山B遺跡位置図

滝戸川と七覚川に挟まれた米倉山は、標高380.8mを測り、曾根丘陵の一角をなしている。

今回の調査は、テクノポリス建設という大規模開発に伴うもので、今年度がその初年度にあたる。米倉山B遺跡は、建設予定地内で確認されている5遺跡の内の一つであり、山頂より東南東方向の尾根に所在する。標高340.09mの地点である。

今回は、住居址20軒、方形周溝墓1基、竪穴状遺構2基、土坑21基、溝1本を検出した。いずれも、弥生時代末から古墳時代初頭にかけてのものである。住居址は、調査区の中央および西側の、平坦地に集中している。それに対し、方形周溝墓は、南東隅の尾根の先端部に位置している。

住居址の調査で特筆されるのは、4軒の住居址から出土している赤褐色の鉄石英である。これらはどれも、砕かれており、住居址の壁際に近い床面から出土している。但し、2号住居址では、砕かれた鉄石英と共に、12.5cmの原石も出ている。鉄石英の用途は明らかではないが、顔料に用いられたことが想定される。土器片の顔料分析が、またれるところである。その他、8号住居址からは、口縁部第2段に刺突をもつ最古期のS字甕（A類）が出土している。床面より高い位置から出土しているものの、遺構の時期を決定する一つの資料となる。

方形周溝墓は、16m×15mを測る。2か所にブリッジを有し、周溝の幅は2.5～3m、深さはもっとも深い所で1.5mである。主体部は、検出されなかった。この周溝の底からは、高さ17cmの有段口縁の壺が出土し、古墳時代初頭の築造であることを推測させる。壺の底部には、焼成前の穿孔が施されており、埋葬する際の供献用として形式化された段階のものであることを窺わせる。これは、ブリッジに近い位置から出土したが、その周りには、甕の破片も散らばっていた。しかし、他方のブリッジは、既に削られた痕跡があり、その近くからは土器もほとんど出土していない。

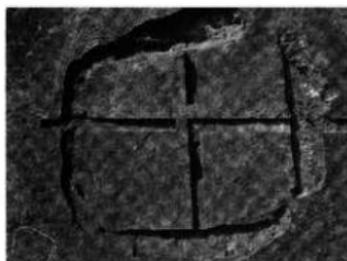
また、10号住居址に近い位置にある1号土坑と10号土坑からは、故意に割られた須恵器の甕が出土した。これは、7世紀終末から8世紀初頭ころのものと見られる。



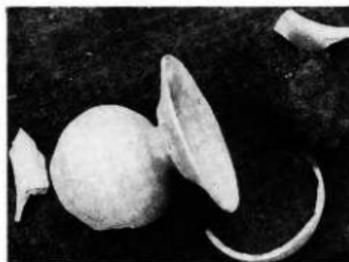
米倉山B遺跡全体図



米倉山B遺跡全景



1号方形周溝墓



有段口縁壺出土状況



須恵器壺出土状況

12. 長田口遺跡

所在地 中巨摩郡樺形町平岡字長田口他
 事業名 富士川西部広域農道建設工事
 調査期間 1991年9月26日～12月13日
 調査面積 720㎡
 担当者 浅利 司、保坂和博



長田口遺跡位置図

長田口遺跡は、富士川西部広域農道建設にともない、1988年から4次にわたり（本年度が最終調査）発掘調査を進めてきた遺跡である。甲府盆地西部の市ノ瀬台地上、標高約400mに位置する。この市ノ瀬台地は、標高2,000mにおよぶ樺形山の東麓に広がる台地で、御勅使用川や滝沢川をつくる沖積地との比高差は約100mである。台地上には、各時代にわたる非常に多くの遺跡が存在していることが知られており、六科丘遺跡・六科山古墳・上野遺跡などがすでに発掘調査されている。

本年度の調査区は、遺跡のもっとも北の部分にあたり、昨年度の調査の際に一時的に土置場とした幅6m長さ120mの場所である。したがって、11mの道路予定幅のうち西半分を昨年発掘し、東半分を本年度発掘したことになる。

今回調査した遺構は、住居址4基（すべて弥生時代末）、獨立柱建物址（中世）、土坑25基（時期不明のものを除くとすべて中世）、溝状遺構14基、集石土坑1基であった。ただし、調査区を昨年度と半分に分けているため、まったく新たに確認調査した遺構は住居址2基、獨立柱建物址（1基）、土坑23基、溝状遺構5基、集石土坑1基であった。遺物は遺構が濃密なのに比べると非常に少なく、全部で蜜柑箱大の整理箱に2箱ほどであった。ほとんどが土器で、しかも住居址から出土した弥生時代末のものであった。中世の遺構は多かったが、遺物の量は少なかった。住居址のうち2基は小判形的大型住居で、発掘区中央付近より検出された26号住居は半分しか調査できなかったものの長径が12m、短径が9mに及ぶ。直径1mほどの柱穴が4箇所検出された。25号住居址は残りが悪かったが、やはり同様の大きさであったと推定される。昨年・一昨年の調査でも大型の住居址が5基も出土しており、当期の住居址の3割を占めることとなる。ムラのなかで、これらがどのような位置を占めていたのかを解明してゆく必要がある。中世の土坑群は、昨年のような大型のものはなかったが、形状は同様のフラスコ状のものが多かった。一部の土坑からはかわらけと北宋銭が出土している。

本年度の調査で、合計4次にわたった長田口遺跡の調査を終えたことになる。調査区の全長は460mとなり、確認された遺構の合計は、住居址29基、土坑108基、溝状遺構42基、集石遺構3基となった。いくつかのまとまりが見て取れるものの、遺構のない部分が少ない、全体的に遺構がひろがっている遺跡であった。



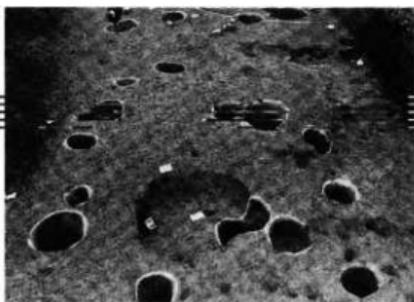
長田口遺跡全体図 (1/1,000)



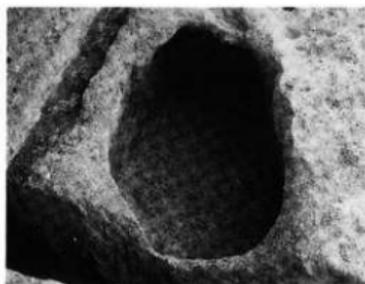
発掘区南半分(北から)



発掘風景



掘立柱建物址



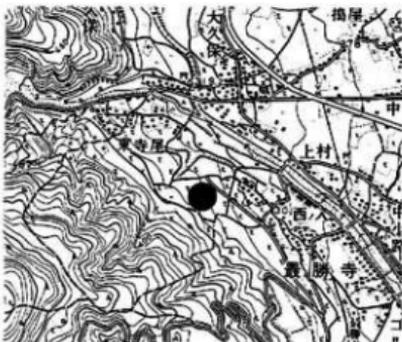
102号土坑



26号住居址

13. 平野遺跡

所在地 南巨摩郡増穂町最勝寺字平野
 事業名 山梨県林業技術センター建設事業
 調査期間 1991年9月2日～12月27日
 調査面積 20,000 m² (26,000 m²)
 担当者 保坂康夫、平山 優



平野遺跡位置図

本調査は、増穂町最勝寺字平野地内における県林業技術センター建設に先立って行なわれた調査である。本遺跡は、釜無川に合流する外川右岸の傾斜面に位置し、北の竹入沢川

と、南の芦沢川という小河川に挟まれた微高地に位置している。本調査に先立って1990年度に試掘調査を行なった。その対象は80,000 m²で、そこに378箇所をわたるトレンチを設定した。その結果、対象地域の西側一帯から、古墳時代初頭（4世紀代）の土器片が多数出土し、壺形土器が炭化物・焼土包含層から検出され、26,000 m²におよぶ遺跡の存在を確認した。今回の調査では、試掘調査によって確認された遺跡部分の全面発掘を行なった。

調査の結果、弥生最末期～古墳時代初頭の住居址25軒・中世掘立柱建物址1軒・溝址1条・土壌4基を検出した。その他、南北に埋没浅谷があり、その中にそれぞれ土器集中部分が存在した。このように遺跡の中心は弥生最末期～古墳時代初頭である。

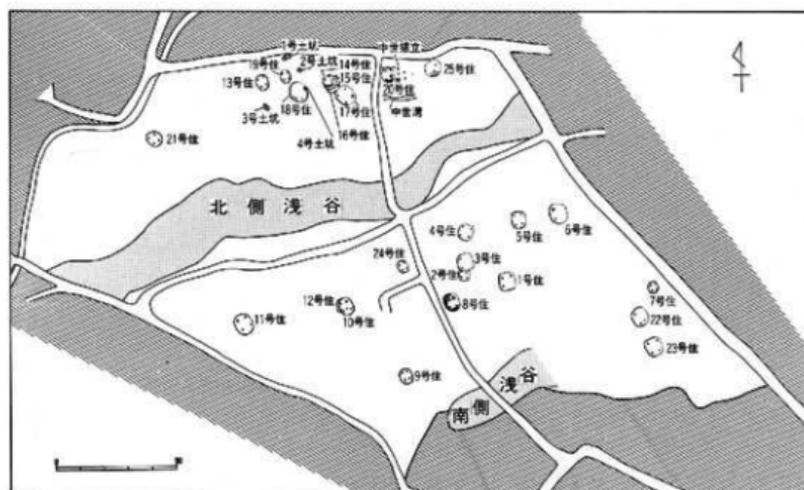
まず発掘された住居址25軒の特徴は、隅丸方形を呈し、長径は5～7 m・短径4～5 mを測り、壁面直下には周溝がある。注目されるのは、住居址すべてが火災住居であり、この遺跡の性格を知る上で重要な手掛りとなろう。その詳細は今後の分析を待たなければならないが、大略を記すと火災住居の中には、床面上に完形土器などが数多く遺存する例と、伴わない例に分けられる。前者の場合は、遺物の出土や保存状況から、生活用品を持ち出す余裕のなかったことが窺われ、失火もしくは第三者による放火の可能性を想定できる。今後、前者と後者の相違を詳細に検討することによって、この遺跡が置かれていた状況を推測することが可能になってこよう。

また住居址に伴う遺物のなかで、注目されるのは11号住居址で発見された石包丁で、県内でも発掘例は少ない。石包丁の存在から、この遺跡が穀物生産と消費を生業の重要な構成要素としていたことが推定されている。その一方で、叩き石なども出土しており、この遺跡の食生活が穀物だけでなく、木の実などの採集なども重要な地位を占めていたことが推測される。また石器としてはこのほかに四面をすべて使用した大型の砥石が13号住居址から出土しており、本遺跡における金属器の使用も考えられる。この他に注目すべき遺物として、5・12号住居址から紡錘車が2個出土した。特に前者から出土した紡錘車は、芯が炭化して残っていた。これによって、本遺跡において植物の繊維を素材とする、織物生産が営まれていたことが推定できる。

さて次に中世の遺構であるが、本遺跡からは20号住居址に切りあう形で、掘立柱建物址が確認された。この掘立柱建物址は一間間隔の柱が東西8.5m・南北5.9mにわたって確認され、柱穴からは若干であるが土師質土器片が確認された。また遺構の東側には、同時期の溝が1条掘立柱建物址と平行してめぐっており、建物址との関係が今後慎重に検討されなければならない。また4号土壇などから、北宋銭が4枚出土しており、掘立柱建物址との関わりも注目される。なお中世の掘立柱建物址が、城館址もしくはその周辺以外から発掘された事例は、本県では珍しい。

次に土壇であるが、特に3号土壇は、長円形皿状を呈し、土器の出土が著しく、しかも部分的に厚い焼土層に覆われていることから、土器焼き遺構である可能性も考えられる。

また遺跡の中心をほぼ東西に貫く北側の浅谷と、さらにその南側に展開する浅谷は、それぞれ土器の集中区が検出され、その結果この浅谷は遺跡とほぼ同時代に存在していたことが推察された。また土層断面から、それは埋積と下刻が幾度かにわたって進行し、そのうち最も安定した黒色土層の時期に集落が形成されたことが推測された。これは当時の環境を知る貴重な資料となろう。この他、13号住居址を素材にした炭化物の調査を進めるため、住居址全体を50cmメッシュに区切り、厚さ3cmで床土をそれぞれ採取し、その中に含まれている炭化物の検出データを作成中である。現在までに、炭化米がかなりの密度で検出されており、本遺跡が穀類に生活の重心を置いていた可能性が強いが、この他に木の実などの密度やその種類を同定・分析することにより、生活の実態をもう少し明らかにすることが可能と思われる。このように、本遺跡は弥生末～古墳初期にかけての移行期村落の実態や、それが置かれていた立場などの究明のうえで貴重な素材となろう。



平野遺跡全体図

14. 外ガイド遺跡

所在地 大月市初狩町下初狩字外ガイド
D 3493-1

事業名 リニア山梨新実験線建設

調査期間 1991年10月2日～12月24日

調査面積 2,200 m²

担当者 小野正文、早川典孝、保坂裕
史、森原明廣

外ガイド遺跡は、相模川水系の宮川と八田川に挟まれた、標高 477 m の平地に所在する。

調査は、リニア山梨新実験線本線を中心とする 2,200 m² について行ったが、北側は既にローム層が現れているため、調査区域は 2,000 m² となった。その結果、縄文時代早期の集石遺構 2 基、石組炉 12 基、縄文時代後期の配石遺構 3 基、集石遺構 2 基、石組炉 3 基、掘立柱建物址 1 軒、柄鏡形敷石住居址 1 軒、平安時代の住居址 5 軒、土壘墓 1 基を検出した。出土遺物は、縄文時代では、早期の押型文、撫糸文、前期の諸磯 C 式、中期の五領ケ台式、後期の堀之内式の土器が出土している。また、平安時代は、土師器の坏をはじめとして、須恵器、灰軸陶器が出土している。

縄文時代早期の石組炉には、楕円押型文の土器片が伴っており、早期でも時代の下ったものであることが知られる。早期の石組炉は、本州では類例が確認されておらず、九州に同様の形態の石組炉があるのみである。外ガイド遺跡の石組炉は、相互に近接しているため、住居に伴うものではなく、屋外炉と考えられる。また、縄文時代中期の遺構は検出されず、五領ケ台式の有孔罌付土器（ミニチュア）が出土したのみである。

ところで、県内における縄文時代の掘立柱建物址は、大泉村の甲ヶ原遺跡で、中期のものでいくつか検出されているのみであった。しかし、今回の調査で、縄文時代後期の掘立柱建物址の存在が明らかになった。しかも、この遺構は、柱穴の隅に高さ 50 cm の埋嚢を伴っている。このような事例は、ほとんど知られていない。埋嚢は、堀之内式のものである。なお、この他にも、堀之内式の埋嚢が土坑の近くにあり、それも掘立柱建物の可能性がある。また、集石遺構の内、長径 170 cm、短径 150 cm の円形をなす集石遺構の石の下には、全面に炭が広がっている状態が見られる。

平安時代の住居址の内、1号住居址からは、判読不明の墨書土器が出土している。この坏は、9世紀末～10世紀初頭頃のもものと見られる。また、6号住居址からは、灰軸陶器が出土しており、外ガイドでは、もっとも新しい時代の遺構である。なお、3号住居址と切り合っている4号住居址は、長軸 760 cm、短軸 680 cm の大型の住居址だが、形態から奈良時代の遺構の可能性もある。土壘墓は、3号住居址に隣接しており、長さ 1.3 cm の骨片が出土したのみである。



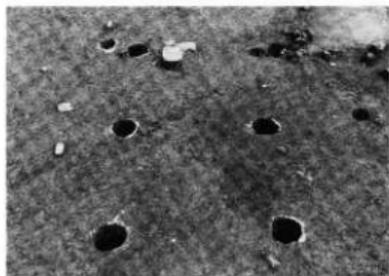
外ガイド遺跡位置図



石組炉(縄文時代早期)



石組炉(縄文時代後期)



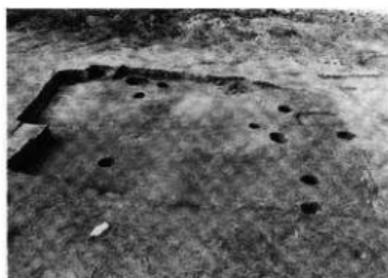
掘立柱建物址(縄文時代後期)



埋葬出土状況(掘之内式)



集石遺構(縄文時代後期)



4号住居址(手前は3号住居址)

15. 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

(1) 八ヶ岳広域農遺試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町、長坂町、小淵沢町

調査期間 1991年5月27日～6月7日

調査面積 約2,000㎡

担当者 米田明訓、一瀬新一郎

調査方法については、個々の調査予定地内において、それぞれの地形等の状況を勘案して試掘坑を設定し、人力あるいは重機により掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

A～Iの9つの地点について試掘を実施した。AおよびB地点は既に川又坂上遺跡として周知されている遺跡で、一部で多量の縄文土器片が出土した。C地点も横森前遺跡として周知されている遺跡で縄文土器片と石鏝が出土した。これら3地点については本調査の必要性がある。その他D～H地点では遺構・遺物はまったく出土しなかった。ただI地点からわずかな縄文土器片と土師器片が出土したため精査の範囲を拡大したが遺跡と確定する積極的な根拠は得ることはできなかった。

(2) 県道石和石橋線試掘調査

所在地 東八代郡石和町小石和字上堀1732他

調査期間 1991年8月20日～8月23日

調査面積 150㎡

担当者 末木 健、高野玄明

作業員による手掘り作業と重機掘削によって、5カ所の試掘坑を設定し、遺跡の有無を確認した。2号トレンチの河川堆積中から土器片が若干出土したが、遺跡の把握は困難であった。出土遺物は弥生時代～古墳時代の土器片である。



県道石和石橋線試掘調査位置図



ツリータウン千塚団地試掘調査位置図

(3) ツリータウン千塚団地試掘調査

所在地 甲府市千塚5丁目9番

調査期間 1991年9月9日～9月20日

調査面積 550㎡

担当者 末木 健、高野玄明

建設予定地に20m×20mメッシュを組み、これに沿ってトレンチを設定した。重機による掘削と、作業員による清掃・確認作業の結果、ほぼ全面に遺構・遺物の分布が認められた。検出された土器から弥生時代後期～平安時代の集落遺跡であることが判明した。

(4) 県道荏崎櫛形豊宮線試掘調査

所在地 中巨摩郡若草町十日市場・櫛形町
小笠原

調査期間 1992年1月13日～1月21日

調査面積 640㎡

担当者 末木 健、高野玄明



県道荏崎櫛形豊宮線試掘調査位置図

用地買収が完了している道路用地内に、幅1mのトレンチを32カ所設定した。重機による掘削を行った後、作業員によって清掃し土層断面観察や遺構・遺物の存在確認を行った結果、遺構・遺物の集中して検出された範囲が2カ所あった。この2カ所の遺跡は甲西バイパス東側の角力場第2・4遺跡(若草町誌)と、清呂木道上第5遺跡・批把遺跡である。角力場遺跡は遺構確認面までは浅く、表土下30～50cmの黒色砂礫層に包含層があるが、清呂木・批把遺跡などは砂質土層が厚く、遺物は採取できるが遺構の確認は困難であった。遺跡時期は平安時代などである。その他の地区でも遺物が出土する層もあるが、氾濫による砂礫層が多く、遺構が確認できない。

(5) 国道411号試掘調査

所在地 甲府市国玉町地内

調査期間 1992年1月27日～1月30日

調査面積 480㎡(32箇所×15m)

担当者 末木 健、高野玄明



国道411号線試掘調査位置図

用地買収が完了している道路用地内に、幅1mのトレンチを32カ所設定した。重機による掘削を行った後、作業員によって清掃し土層断面観察や遺構・遺物の存在確認を行ったが、遺構・遺物の検出はできなかった。表面採集では弥生時代～中世の土器片を見ることができ、掘削すると粘土層と砂礫ばかりで、遺構が確認できる層位はない。僅かに2～3カ所のトレンチで土器を見つけたが、遺構には伴わない。かつて粘土採掘が盛んに行われた地域ということから、遺跡が含まれる層が削平されてしまったと考えられよう。

(6) 県道塩平窪平線試掘調査

所在地 東山梨郡牧丘町請地字曲田566-1
調査期間 1992年1月8日、1月23日
調査面積 20 m²
担当者 末木 健、高野玄明

県道拡幅部分について、重機によりトレンチを設定し、遺構・遺物の確認調査を行った。一部から焼土・炭化物・土器などが検出された。遺構は住居跡と考えられるが、幅が狭く全容の解明には至らない。時代は古墳時代前期である。



県道塩平窪平線試掘調査位置図

(7) 富士川西部広域農道試掘調査

所在地 南巨摩郡増穂町大字小林字八幡西
調査期間 1991年7月17日～7月19日
調査面積 36 m²
担当者 新津 健、五味信吾

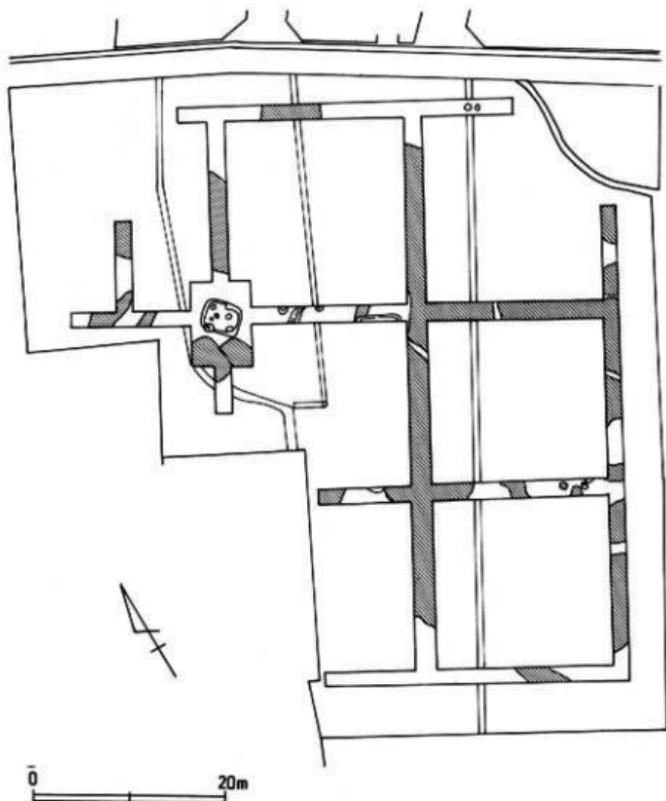
用地買収が終了した230mの区間について、人力により2×3mのトレンチを設定し調査を行った。それぞれ地表下120cmほど掘り下げたが砂や礫を混入する層が交互に堆積しており、遺構・遺物は検出されなかった。



富士川西部広域農道試掘調査位置図



八ヶ岳広域農道遺跡確認調査位置図



ツリータウン千塚団地（榎田遺跡）全体図



東道高崎形豊富線試掘調査風景



東道塩平壘平線試掘調査風景

16. 甲西バイパス地内試掘調査

所在地 中巨摩郡甲西町田島～宮沢
事業名 一般国道52号建設
調査期間 1991年12月12日～1992年1月31日
調査面積 580㎡（48,000㎡）
担当者 新津 健、五味信吾



甲西バイパス試掘

平成元年度から3年目を迎えた試掘調査である。本年度は甲西町地内の田島・清水・大師・宮沢地区の約1,200m区間の調査を実施した。調査は重機と人力より10～30m間隔

に2×2～10mのトレンチを設定し行った。トレンチ数は96カ所を数える。扇状地末端の湧水地帯を含んでおり、近隣には弥生時代から古墳時代の集落遺跡が多く知られている。特に南半部にあたる清水地域は樹枝状に谷が入り組んでいると思われ、この谷に接する台地縁辺から中世の遺構が発見されている。また谷部からは水田跡も確認された。調査対象地の北半部は滝沢川や狐川の氾濫による砂利が厚く堆積しており遺跡は少なかった。今回3カ所の遺跡が確認されたが、その概要は以下のとおりである。

① 中川田遺跡 甲西町田島字中川田

地表下100～130cmに杭や溝それに畦畔状の小土手などが確認された。この部分は安定した粘土面であることから水田跡と思われる。

② 大師東丹保遺跡 甲西町大師字東丹保

清水の集落に最も近い場所に位置しており、舌状に台地が発達している部分を含んでいる。この台地縁辺部を中心に、中世の溝や祭祀遺構が発見された。溝中からは漆塗り椀や刀鞘などの木製品、それに土器が出土した。祭祀遺構と見られる場所からは、杭や斎串状の木製品が多量に出土し、馬の歯、北宋銭、漆塗り皿、土器、青磁皿、刀子などがまとめて発見された。土器からみて鎌倉時代の遺構と思われる。この箇所は微高地が谷に落ち込む部分にあっており、水辺での祭祀が行われた場所ではないかと推測される。この部分は地表下60～80cmである。また谷部分では地表下120cmから古墳時代の土器、180cmから木片が出土しており、さらに下層にも中世以前の遺跡が埋没している可能性が強い。これらのデータから本遺跡は集落と水田を含む、これまであまり知られていなかった遺跡として評価されよう。

③ 宮沢中村遺跡 甲西町宮沢字東宮沢

この地区は旧宮沢集落が栄えていた場所である。度重なる水害のために明治40年代までには全村が移住したものである。この村中の寺であった場所が工事予定箇所当たっている。調査の結果建物の礎石や池の跡などが確認され、同時に江戸時代の陶磁器や木製品が多量に出土した。寺の創建は戦国期（永禄3年）と伝えられており、中国製の青磁片も出土していることか

ら、下層にはこの時期の遺構も存在する可能性がある。

17. リニア山梨新実験線建設に伴う遺跡分布調査

所在地	①都留市朝日曾禰大平 ②大月市初狩町下初狩 ③東八代郡埴川村藤壑	調査面積	① 80 m ² ② 30 m ² (調査対象面積 3,165 m ²) ③ 6,348 m ² (調査対象面積 240,000 m ²)
調査期間	①1991年8月22日 ②1991年11月26日 ③1992年1月23日～2月21日	事業名	リニア山梨新実験線建設
		担当者	小野正文、早川典孝

- ① 大平地区の地形から遺跡の存在が予測される2地点に、試掘坑を設定した。第1地点は水田だった場所で、削平の無い良好な箇所を調査したところ、遺構・遺物は皆無であった。第2地点は桑園で、傾斜に並行して2本の試掘坑を設定した。地層は安定しているものの、遺構・遺物は皆無であった。
- ② 調査対象地は、外ガイド遺跡に隣接した所であるため、遺跡の存在が予想された。しかし、幅1m、長さ6m、深さ0.9～2mの試掘坑を5本設定した結果、何れの試掘坑でも、水性堆積層が認められ、遺構・遺物は確認されなかった。
- ③ 調査対象地全域にわたって、177本の試掘坑を設定した結果、3カ所の遺構の存在が確認された。遺構は何れも台地上にあり、沢部には遺構・遺物は皆無であった。その内、「諏訪尻遺跡」と命名した遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての土器片が多数発見された。また、それに隣接して「狐塚」と呼ばれる古墳があり、5本の試掘坑を設定して範囲の確認を行った。その結果、直径約35m、周溝の幅約5m、周溝の深さ0.7～1.2mを測ることが判明した。なお、周溝の底からは、4世紀中葉と思われる壺の口縁部が出土している。



調査風景



古墳周溝トレンチ



都留市大平試掘調査位置図



初狩試掘調査位置図



境川藤袋試掘調査位置図

所在地 ④東八代郡一宮町上矢作

⑤東八代郡一宮町小城

調査期間 ④1992年3月2日

⑤1992年3月3日

調査面積 ④144 m²

⑤108 m²

事業名 リニア山梨新実験線建設

担当者 坂本美夫

④ 11本の試掘坑を設定した結果、1本を除いて、耕作土の下は砂層であった。また、その1本の耕作土の下には砂層はなく、雑混じりの褐色土であり、様相を異にしていた。しかし、何れも遺構・遺物は皆無であった。

⑤ 12本の試掘坑を設定した結果、10本の試掘坑の耕作土の下は砂層であった。また、残る2本の耕作土の下は締まりの強い茶褐色土であり、様相を異にしていた。しかし、何れも遺構・遺物は皆無であった。



上矢作(白ヌキ)・小城(斜線)試掘調査位置図

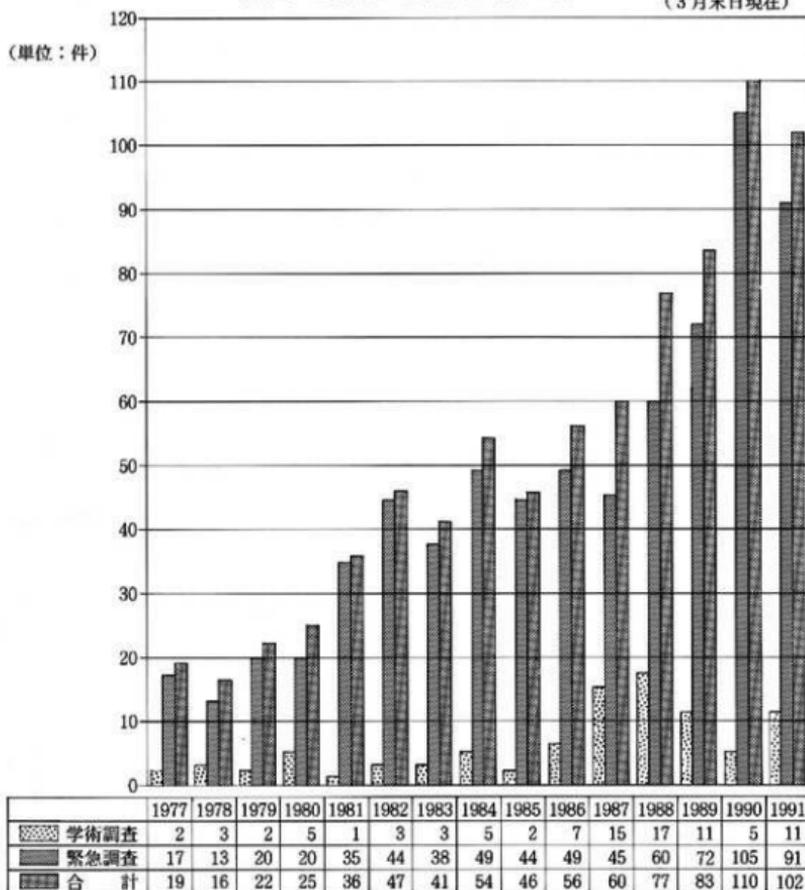
Ⅲ 県 内 の 概 況

1 調査の件数と状況

下のグラフに示したように、今年度は県内で102件（3月末日）の調査が行われている。1979年度から発掘調査が増加しているのは、中央自動車道建設に伴うものや、八ヶ岳山麓の圃場整備に伴う発掘調査が増加していることに起因し、それ以降、県内の発掘調査は増加の一途をたどり、昨年度はついに100件を越えるに至った。本年度は、昨年度に比べ若干の減少を見せているが、ほんの一時的なものと考えられる。県、市町村ともに将来の大型開発に伴う試掘調査が行われており、これからも発掘調査は増加していくものと考えられる。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

(3月末日現在)



調査の原因については、昨年に引き続き建物建設にかかわる調査が31件と最も多い。農業関連の事業に伴うものは19件と、若干の増加を見せている。このうち、最も多いのが圃場整備の12件である。これ以外に畑地総合整備事業などに伴う農道事業7件となっている。その他の開発としては、道路建設、ダム建設、公園造成、土砂採取、ゴルフ場建設、リゾート開発事業等が主なものとして行われており、中でも特に道路建設の多さが目立っている。また、今年度からリニア山梨新実験線関連の発掘及び試掘調査が行われているが、これに関する事業はこれから益々増えて行くことと思われる。また、甲西バイパス関連の調査も同様に増加して行くことであろう。最近特に、注目されているゴミ問題にかかわる廃棄物の最終処分場関係の調査も見られ、これも今後一層増加するものと思われる。

開発に伴う発掘調査を見てみると、甲府市4件、山梨市1件、塩山市2件、韮崎市3件、都留市1件、大月市1件、北巨摩郡24件、中巨摩郡11件、南巨摩郡2件、西八代郡3件、東八代郡30件、東山梨郡6件、北都留郡3件となり、昨年同様、特に北巨摩郡と東八代郡下に集中し、全体の半数以上を占めている。このうち、北巨摩郡下は圃場整備が、東八代郡下は、工場、宅地造成、土砂採取がその主を占めている。中巨摩郡も昨年同様10件と多く調査が行われており、これは甲西バイパス関連の調査が行われているためで、今後も増えて行くことが予想される。

遺跡の範囲確認調査や、現地保存を図るための学術調査としては、塩山市奥豊原遺跡、塩山市愛切塚、都留市勝山城跡、下部町湯之奥金山跡などが行われ、範囲確認調査として、春日岡町国府遺跡、富士吉田市吉田城山、韮崎市田向遺跡（新府城）などがある。また、史跡整備として八代町鏡子塚古墳の第1次調査が実施された。このほか、古代寺院の確認調査が春日居町長谷寺、塩山市放光寺、一宮町大積寺址などで行われた。

このように、開発に関する発掘調査は92件、遺跡整備や範囲確認調査は11件となっている。調査件数は、ここ数年増加傾向に向いていたが、本年度の場合は昨年度に比べ僅かではあるが減少を見せている。しかし、今年度も県、市町村ともに大型開発が相当数計画されており、この減少もほんの一次的なものと思われ、将来の大型開発に備えての試掘調査がみられることから伺える。

1991年度発掘調査一覽表 No.1

番号	遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時期	面積(㎡)
1	神戸遺跡	北摂郡上野原町中ずみ町2774番地の1外	上野原町教育委員会	築物基礎建設に伴う範囲調査	91.03.01～91.03.31	縄文	1,000
2	甲府遺跡	甲府市丸の内 5-69	山梨県教育委員会	遺跡整備	91.04.01～92.03.31	近世	5,000
3	天神原遺跡	東八代郡一宮町蓮田字天神原741-1外	一宮町教育委員会	宅地造成	91.04.05～91.07.31	縄文・平安・中世	3,051
4	松本親ノ越遺跡	東八代郡石川町松本222-17、416-19	石川町教育委員会	遺跡調査	91.04.17～91.08.31	縄文・古墳・近世	1,000
5	川上道下遺跡	中野郡御影町下市之瀬1150-1外	御影町教育委員会	住宅建設	91.04.10～91.06.30	縄文・奈良・平安	2,600
6	立石南遺跡	東八代郡塩田山村小原太田483-4、483-3、497-1	塩田山村教育委員会	学術調査	91.07.01～91.10.30	縄文	971
7	藤山城跡	都留市川穂字城山984外	都留市教育委員会	学術調査	91.03.01～91.06.31	中世・近世	607
8	東山北遺跡	東八代郡中道町下山1353	山梨県教育委員会	公園造成	91.05.08～91.08.31	学生	3,000
9	竜内遺跡	北群馬郡長坂町長坂下高平電筒1365-2	長坂町教育委員会	工場整備	91.05.10～91.12.28	縄文・古墳・平安	2,987
10	川内遺跡	北群馬郡高根町大八田3766番地外	高根町教育委員会	飼舎整備事業	91.05.07～91.08.17	縄文・平安・中世	20,000
11	前の上遺跡	北群馬郡須玉町北志字前の上3732外	山梨県教育委員会	ゾウ4隻飼養	91.05.07～91.06.31	縄文・平安・中世	12,000
12	柳井遺跡	北群馬郡須玉町大平字柳井1550番地外	須玉町教育委員会	飼舎整備事業	91.06.03～92.03.31	縄文・古墳	600
13	狐塚の野遺跡	東八代郡中道町上向山字松通76外	中道町教育委員会	上杉保護	91.06.03～92.03.31	縄文・平安	18,000
14	狐塚遺跡	北群馬郡高根町長沢地区内	高根町教育委員会	飼舎整備事業	91.06.03～92.03.31	学生・平安	3,000
15	滝内遺跡	北群馬郡高根町山山西地区内	高根町教育委員会	飼舎整備事業	91.06.03～92.03.31	学生・平安	2,242
16	甲ツ原遺跡	北群馬郡大泉町西字西の人64外	山梨県教育委員会	道路建設	91.05.20～91.12.27	縄文	1,650
17	西の人遺跡	北群馬郡大泉町西字西の人64外	山梨県教育委員会	道路建設	91.05.20～91.08.17	縄文	1,913
18	一彦氏遺跡	西八代郡三坂町上野字一彦林3192外	三坂町教育委員会	道路建設	91.07.15～91.09.15	中世	800
19	岩尻遺跡	巨摩市穴山町字岩尻4483-3	山梨県教育委員会	道路建設	91.05.20～91.07.31	縄文	9,667
20	身延町元木田寺跡遺跡	南巨摩郡身延町下山字身延536	身延町元木田寺跡地保協会の調査	コルプ造成	91.06.01～91.10.31	縄文	63
21	野瀬遺跡	北群馬郡明野町上手3851	明野町教育委員会	住宅建設	91.05.25～91.05.31	縄文	667
22	駒橋遺跡	北群馬郡明野町上手7619-1	明野町教育委員会	飼舎整備事業	91.05.24～91.11.30	縄文・平安・中世	5,000
23	賀取遺跡	北群馬郡須玉町大平1142-1	須玉町教育委員会	飼舎整備事業	91.07.15～91.09.30	縄文	1,850
24	飯赤遺跡	北群馬郡須玉町大平1142-1外	須玉町教育委員会	飼舎整備事業	91.06.24～91.11.30	縄文・平安・中世	10,000
25	安石南遺跡	東八代郡塩田山村小原太田484番地	塩田山村教育委員会	配水池設置	91.07.15～91.08.31	縄文	211
26	聖切遺跡	塩田市下塩後582-3外	塩田市教育委員会	学術調査(市立福原遺跡)	91.07.01～91.07.31	近世	50
27	中村遺跡	北群馬郡大泉町西井出3401-1外	大泉町教育委員会	飼舎整備事業	91.07.15～91.09.30	縄文	3,503
28	中村2遺跡	北群馬郡大泉町西井出2183外	北群馬郡大泉町教育委員会	飼舎整備事業	91.07.15～91.09.30	縄文	1,500
29	甲ツ原2遺跡	北群馬郡大泉町西井出5107-17外	大泉町教育委員会	フェニックス建設	91.07.15～91.07.31	縄文	50
30	保ノ下遺跡	東八代郡八代町南1147-1外	八代町教育委員会	宅地造成	91.06.28～91.07.06	縄文・古墳・平安・中世	50
31	保ノ下遺跡	東八代郡八代町南1138	八代町教育委員会	宅地造成	91.06.28～91.07.16	縄文・古墳・平安・近世	72
32	板ヶ丘遺跡	北群馬郡上野原町上野原1889外	上野原町教育委員会	道路建設	91.07.01～91.08.31	縄文・古墳	500
33	上ヶ丘遺跡	北群馬郡白州町南手吉瀬町2138外	白州町教育委員会	飼舎整備事業	91.06.15～91.09.30	縄文・平安	10,000
34	加茂原遺跡	東山梨郡都賀町高戸664	春日町教育委員会	小学校園外周環境改善工事	91.07.29～91.08.17	古墳・平安	919
35	新郷道下遺跡	山梨県都賀町十日市字新郷道下1746外	山梨県教育委員会	道路建設(中西ハイパス)	91.07.22～92.03.31	古墳・奈良・平安	10,400

1991年度発掘調査一覽表 No.2

番号	遺跡名	所在地	調査主体	調査目的	調査期間	時期	面積(㎡)
36	第八川遺跡	北田郡新小坂町上原字第八川3331-13	山形県教育委員会	遺跡建設	91.07.08～91.09.30	縄文	500
37	下川内遺跡	西八代郡三好町大塚字下川内	三好町教育委員会	遺跡建設	91.07.15～91.07.20	縄文	1,270
38	東八代郡石川町下平井字南山13332-2	東八代郡石川町下平井字南山13332-2	共同作業委員会	共同作業建設	91.07.09～91.07.20	奈良・平安	1,697
39	第二新橋川遺跡	郡山市小野字杉の木224-2	郡山市教育委員会	T.増巻建設	91.07.26～91.08.01	奈良・平安	1,667
40	松林遺跡	東八代郡中津町上向山79番地外	中津町教育委員会	土砂採取	91.02.19～91.03.29	縄文・古墳	4,345
41	一松氏遺跡	東八代郡中津町上向山74-1	中津町教育委員会	土砂採取	91.04.01～91.04.05	縄文・古墳	979
42	松林遺跡之上野古墳群	西八代郡三好町上野字一畑村3158	三好町教育委員会	公園造成	91.07.22～91.11.25	縄文・平安・古墳・奈良・古墳・平安・中世	7,000
43	北尾遺跡	東八代郡一宮町下野字之原南739、740 字芝原田866	一宮町教育委員会	公園造成	91.07.10～91.10.18	古墳・平安	1,710
44	米倉山B遺跡	東八代郡中津町下向山字米倉山3911-6外	山形県教育委員会	米倉山B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q・R・S・T・U・V・W・X・Y・Z・AA・BB・CC・DD・EE・FF・GG・HH・II・JJ・KK・LL・MM・NN・OO・PP・QQ・RR・SS・TT・UU・VV・WW・XX・YY・ZZ・AAA・BBB・CCC・DDD・EEE・FFF・GGG・HHH・III・JJJ・KKK・LLL・MMM・NNN・OOO・PPP・QQQ・RRR・SSS・TTT・UUU・VVV・WWW・XXX・YYY・ZZZ・AAA・BBB・CCC・DDD・EEE・FFF・GGG・HHH・III・JJJ・KKK・LLL・MMM・NNN・OOO・PPP・QQQ・RRR・SSS・TTT・UUU・VVV・WWW・XXX・YYY・ZZZ	91.07.22～02.03.31	野石器・縄文・奈良・古墳	3,000
45	狐原遺跡	東八代郡石川町中川字狐原南ノ木1320-2	石川町教育委員会	倉庫建設	91.07.29～91.08.09	縄文・奈良・平安	130
46	上堀遺跡	東八代郡石川町石和寺1630-1外	石川町教育委員会	個人住宅建設	91.07.22～91.07.26	弥生	20
47	熊野原遺跡	東八代郡石川町石和寺1630-1外	石川町教育委員会	個人住宅建設	91.08.19～91.09.10	縄文	100
48	湯之真金山遺跡	西八代郡下郷町湯之真ノ小山430	山形県歴史文化考古学研究会	縄文時代の水晶体加工品調査	91.07.20～91.09.30	中世・近世	150
49	藤八川遺跡	北田郡新小坂町上原字藤八川3331-13	山形県教育委員会	公園建設	91.08.05～91.09.30	縄文	500
50	高野字山平遺跡	東八代郡三好町高野南1415-1	三好町教育委員会	遺跡建設	91.08.07～91.08.30	縄文・奈良・古墳	24
51	月田遺跡	東八代郡石川町小石和字上堀1732外	山形県教育委員会	遺跡建設	91.08.19～91.09.30	奈良・平安	150
52	一本柳遺跡	中田郡磐前町新十口字柳字一本柳166外	山形県教育委員会	運動施設(神宮ハイパス)	91.08.26～92.03.31	平安・中世	5,400
53	外方I F遺跡	南田郡遊佐町藤原寺字外方	山形県教育委員会	跡建設(ユニバーニターカー)	91.08.26～92.03.31	縄文・奈良・古墳・奈良・平安	2,000
54	早野遺跡	南田郡遊佐町藤原寺字外方	山形県教育委員会	跡建設(ユニバーニターカー)	91.08.26～92.03.31	縄文・奈良・古墳・奈良・平安	2,000
55	甲斐岡分尼寺遺跡	東八代郡一宮町甲斐岡500-1	一宮町教育委員会	森林技術センター建設	91.09.02～91.12.02	縄文・平安・中世	1,700
56	柳田遺跡	伊前町千巻5丁目3077-1	山形県教育委員会	宅地造成	91.08.09～91.09.13	古墳・平安	3,400
57	二本柳遺跡	中田郡遊佐町加賀字西山2173	山形県教育委員会	道路建設	91.08.30～91.12.25	中・近世	1,000
58	上米川遺跡	郡山市六山町上米川地内	郡山市教育委員会	体育館建設	91.06.03～92.03.31	平安	3,000
59	堂川遺跡	尾花町内野町内	尾花町教育委員会	併合児童園整備	91.06.03～92.03.31	縄文	2,000
60	田岡遺跡	尾花町中田岡中栗字田岡地内	尾花町教育委員会	農業関連	92.02.01～92.03.31	中世	100
61	新橋遺跡	北田郡遊佐町新橋字新橋1431	北田郡遊佐町教育委員会	公園造成	91.09.30～91.10.05	縄文	19,000
62	高野字山平遺跡	東八代郡遊佐町高野南1431	三好町教育委員会	跡建設	91.10.04～91.10.17	縄文・奈良・古墳	45
63	松原遺跡	東八代郡一宮町松原字松原685外	一宮町教育委員会	道路建設	91.10.02～91.12.27	古墳・奈良・平安	1,060
64	紙田口遺跡	山形県遊佐町新平字紙田口	山形県教育委員会	遺跡建設	91.10.01～92.03.31	縄文・奈良・古墳	600
65	西川遺跡	郡山市新野字西川100-1、101-1	郡山市教育委員会	店舗建設	91.10.04～91.10.26	古墳	1,000
66	北野遺跡	東八代郡一宮町北野字北野321外	一宮町教育委員会	宅地造成	91.10.09～91.10.31	古墳	300
67	乙川ノ新遺跡	郡山市三日市字乙川ノ新2640外	郡山市教育委員会	宅地造成	91.10.14～91.10.16	縄文・古墳・平安・古墳	160
68	乙川ノ新遺跡	郡山市三日市字乙川ノ新2640外	郡山市教育委員会	宅地造成	91.11.05～91.12.27	縄文	1,545
69	貼沢遺跡A	中田郡磐前町貼沢字村内510	中田郡磐前町教育委員会	その他開発(資材運搬)	91.10.21～91.10.25	古墳・奈良・平安	684
70	切付遺跡	中田郡磐前町切付字之原切付1439-1外	磐前町教育委員会	その他開発(資材運搬)	91.11.11～91.12.27	奈良・平安	100

1991年度発掘調査一覽表 No 3

番号	遺 産 名	所 在 地	調査主体者	調査日時	調査期間	時 代	面積 (㎡)
71	瑞雲原遺跡	東山郡柳井町豊科字丸山7194、7195外	彰行町教育委員会	調査実施	91.11.19～92.02.29	縄文	860
72	長谷寺跡	東山郡赤目町島崎村3681外	山梨県教育委員会	学術研究	91.11.20～91.11.30	平安	200
73	大神原遺跡	東八代郡一宮町塩田837-6	一宮町教育委員会	住宅建設	91.11.06～91.11.20	平安・中世	210
74	高部字山平遺跡	東八代郡豊後村高部1423	その他開発(朝田建設)	その他開発(朝田建設)	91.11.11～91.11.20	縄文・弥生・古墳	100
75	鮎沢遺跡B	中巨摩郡中川町鮎沢字村内528-2	中巨摩町教育委員会	その他開発(貯水地)	91.11.10～91.11.20	古墳・奈良・平安	95
76	朝気遺跡	甲府市朝気3丁目105-2外	甲府市教育委員会	道路建設	91.11.20～91.12.31	弥生・古墳・奈良・平安・中世	625
77	放光寺遺跡	北山郡小泉町小泉大字大徳寺1407-16	山梨県教育委員会	学術調査	91.12.11～91.12.25	平安	100
78	大櫃寺遺跡	北八代郡大井町大井大字大櫃寺1407-16	山梨県教育委員会	学術調査	91.12.02～91.12.10	平安	100
79	甲ノ原遺跡	北八代郡大井町西井出丁和井田9187-17	大井町建設委員会	その他開発(チヌコート)	91.12.16～92.03.31	縄文	1,685
80	甲ノ原遺跡	北八代郡大井町西井出丁9126-86外	大井町教育委員会	その他開発(資材集積)	91.11.25～91.11.30	縄文	100
81	鎌子宮内遺跡・鎌子原遺跡	東八代郡八代町東2320-2外	学術調査(遺跡整備)	八代町教育委員会	91.12.03～91.12.26	旧石器・縄文・古墳・中世	365
82	西川山遺跡	富士市田町上田町字城山1298	富士市田町教育委員会	遺跡整備	91.11.25～91.11.29	中世	46
83	越前川遺跡	北八代郡長坂町長坂下坂1332、1306-1	長坂町教育委員会	宅地造成	91.12.03～92.01.08	弥生・古墳・平安	5,000
84	上ノ原遺跡	北八代郡長坂町長坂下坂1332、1306-1	長坂町教育委員会	宅地造成	91.10.21～92.03.31	縄文・弥生・平安・中世	29,787
85	守本園寺遺跡	東山郡春日田町守本園内	上ノ原遺跡発掘調査団	観光開発・ゴルフ場造成	91.10.21～92.03.31	縄文・平安	240
86	蔵跡原遺跡	東山郡春日田町蔵跡原1344	春日田町教育委員会	道路建設	92.03.16～92.03.31	古墳・平安	449
87	立司遺跡	山梨市小原町立司原1344	山梨市教育委員会	宅地造成	92.01.22～92.01.24	古墳・平安	3,153
88	小石原遺跡	東八代郡石田町下平井460	石田町教育委員会	個人住宅建設	92.01.10～92.03.10	平安	120
89	市之瀬地区工場跡地発掘調査	北八代郡一宮町市之瀬672外	一宮町教育委員会	工場用地造成	92.01.13～92.03.31	古墳	53,050
90	御所山平遺跡跡外	東八代郡湯川村御所山6054外	山梨県教育委員会	工場用地造成	92.01.20～92.13.31	縄文	700
91	石和志原内遺跡跡外	東八代郡石和志町下平井84	石和志町教育委員会	住宅建設	92.02.01～91.03.31	弥生	287
92	国利遺跡	東八代郡春日田町国利野舎138-1外	春日田町教育委員会	学術研究(官衙関係遺跡の発掘調査)	92.01.27～92.03.31	弥生・平安	300
93	外野宮ケテ遺跡	甲府市外野宮町外野宮南字曲目566-1	山梨県教育委員会	道路建設	92.01.29～92.01.29	古墳	8
94	外野宮ケテ遺跡	甲府市外野宮町外野宮南字曲目566-1	山梨県教育委員会	遺跡整備	92.02.10～92.02.28	古墳・平安	16,000
95	新野原遺跡(川上遺跡)	中巨摩郡新野町川上町下瀬128-1外	新野町教育委員会	工場建設	92.02.03～92.03.31	縄文・古墳・奈良・平安	15,000
96	金ヶ原遺跡	中巨摩郡新野町大下金ヶ原の尾1820-3外	新野町教育委員会	工場建設	92.02.19～92.02.28	縄文・弥生	910
97	山崎第4遺跡	北八代郡一宮町水本575	大井町教育委員会	宅地造成	92.04.01～92.06.30	縄文	1,000
98	電ノ木遺跡	東山郡春日田町電ノ木371	春日田町教育委員会	ショップ長編成設備建設	92.03.16～92.03.31	古墳・平安	400
99	新野原遺跡	東八代郡一宮町水本650-4外	一宮町教育委員会	宅地造成	92.03.16～92.03.31	古墳・奈良・平安	20
100	田代遺跡	北八代郡上野町田代3011外	上野町教育委員会	宅地造成	92.03.02～92.03.31	縄文	1,999
101	河ノ木神社遺跡	東八代郡一宮町水本650-4外	一宮町教育委員会	宅地造成	92.03.08～92.03.31	平安	1,300
102	善徳原遺跡	中巨摩郡新野町山崎693-1	新野町教育委員会	宅地造成	92.03.23～92.03.30	弥生・平安	50

年 報 8

印刷日 平成4年3月25日

発行日 平成4年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根 923

TEL 0552-66-3881

印刷所 (有)新 星 堂 印 刷

